平成２６年度
（２０１４年）

農作物有害動植物発生予察事業年報

島根県農業技術センター
島 根 県 病 害 虫 防 除 所

目　　次

Ⅰ. 事業の目的 …… 1
Ⅱ. 事業の実施の方針と概要 …… 1
Ⅲ. 事業対象有害動植物の種類 …… 1
Ⅳ. 事業実施組織と本年度の実施方法 …… 2
　１. 病害虫防除所における予察事業担当者 …… 2
　２. 病害虫防除員 …… 2
　３. 予察圃場設置一覧 …… 2
　４. 予察灯・フェロモントラップの設置一覧 …… 2
Ⅴ. 事業内容 …… 3
　１. 平成26年度における調査観察成績 …… 3
　　Ⅰ）　普通作物等 …… 3
　　（Ⅰ）イネ …… 3
　　１．イネの生育状況 …… 3
　　２．病害虫に関する調査結果 …… 3
　　１）葉いもち …… 3
　　２）穂いもち …… 4
　　３）紋枯病 …… 4
　　４）白葉枯病 …… 5
　　５）ヒメトビウンカ …… 5
　　６）ツマグロヨコバイ …… 6
　　７）ニカメイチュウ …… 7
　　８）セジロウンカ …… 8
　　９）トビイロウンカ …… 9
　　１０）コブノメイガ …… 11
　　１１）イネミズゾウムシ …… 12
　　１２）カメムシ類 …… 13
　　（Ⅱ）ムギ …… 13
　　１．ムギの生育状況 …… 13
　　２．病害虫に関する調査結果 …… 14
　　１）さび病類、うどんこ病、斑葉病、雲形病、赤かび病 …… 14
　　（Ⅲ）ダイズ …… 15
　　１．病害虫に関する調査結果 …… 15
　　１）ハスモンヨトウ …… 15

Ⅱ）果樹…… 16
（Ⅰ）ナシ…… 16
１．病害虫に関する調査結果…… 16
１）黒斑病、黒星病…… 16
２）ナシヒメシンクイ…… 18
３）ナシオオシンクイガ…… 19
４）モモシンクイガ…… 19
５）チャノコカクモンハマキ…… 20
６）チャハマキ…… 21
７）ハダニ類、カイガラムシ類…… 21
８）アブラムシ類…… 22
（Ⅱ）カキ…… 23
１．病害虫に関する調査結果…… 23
１）炭疽病…… 23
２）うどんこ病、灰色かび病、果実黒すじ病…… 23
３）カキミガ…… 25
４）カメムシ類・・・・・…… 25
５）チャノコカクモンハマキ…… 26
６）チャハマキ…… 26
７）カキクダアザミウマ…… 26
８）フジコナカイガラムシ…… 27
（Ⅲ）クリ…… 28
１．病害虫に関する調査結果…… 28
１）モモノゴマダラノメイガ…… 28
２）クスサン…… 28
Ⅲ）野菜…… 29
（Ⅰ）キャベツ…… 29
１．病害虫に関する調査結果…… 29
１）黒腐病…… 29
２）菌核病、軟腐病、根こぶ病、株腐病…… 29
３）モンシロチョウ…… 29
４）コナガ…… 29
５）ヨトウガ…… 30
６）ウワバ類…… 30
７）アブラムシ類…… 30
８）ハスモンヨトウ…… 30
９）シロイチモジヨトウ…… 31

10）オオタバコガ…… 32
11）キスジノミハムシ…… 33

（Ⅱ）タマネギ…… 33
１．病害虫に関する調査結果…… 33
１）べと病…… 33
２）白色疫病、ボトリチス属菌による葉枯症、腐敗病・軟腐病、さび病… 33
（Ⅲ）イチゴ…… 33
１．病害虫に関する調査結果…… 33
１）灰色かび病…… 33
２）アブラムシ類…… 34
３）ハダニ類…… 34
Ⅳ）花卉 …… 34
（Ⅰ）キク…… 34
１．病害虫に関する調査結果…… 34
１）アブラムシ類…… 34
Ⅴ）病害虫発生程度別面積…… 35
Ⅵ）病害虫発生経過の概要及び発生原因の解析…… 38
１．イネの病害虫…… 38
２．ムギの病害…… 38
３．ダイズの病害虫…… 39
４．ナシの病害虫…… 39
５．カキの病害虫…… 40
６．夏秋キャベツの病害虫…… 40
７．冬キャベツの病害虫…… 40
８．タマネギの病害虫…… 41
９．イチゴの病害虫…… 41
Ⅶ）情報の提供、諸報告に関する事項…… 42
１．情報の提供先…… 42
２．発表状況…… 42
１．発表内容…… 43
注意報　第１号 水稲 斑点米カメムシ類…… 44
第２号 果樹全般 カメムシ類…… 46
特殊報　第１号 トルコギキョウ えそ輪紋病…… 48
技術資料　第１号 水稲 斑点米カメムシ類 …… 50
第２号 エゴマ 青枯病…… 52
第３号 水稲 ＱｏＩ剤耐性イネいもち病菌…… 54
Ⅷ）気象表…… 55

平成２６年度農作物有害動植物発生予察事業年報

島根県農業技術センター
島 根 県 病 害 虫 防 除 所

Ⅰ　事業の目的

病害虫の防除を適時で経済的なものとするため、病害虫の発生、農作物の生育及び気象などの状況を調査して、病害虫の発生を予察し、それに基く情報を関係者に提供する。

Ⅱ　事業実施の方針と概要

指定有害動植物に重点をおき、これらの病害虫の発生予察法の確立を図るとともに、農業普及部及び病害虫防除員などと連絡を密にし、確実な情報の収集に努め、発生予報、特殊報、注意報及びその他必要な情報をすみやかに提供して、適期防除による被害防止に努めた。また、県農業振興協会とは絶えず緊密な連絡をとり、重要な病害虫の発生に際しては、その都度資料を提示して適切な対策について協議決定し、防除に万全を期した。

Ⅲ　事業対象有害動植物の種類

１．普通作物等

１）イネ	指　定	いもち病、紋枯病、ニカメイガ、セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ）、イネミズゾウムシ、コブノメイガ
	重　要	白葉枯病
２）ムギ	指　定	うどんこ病、赤かび病
	重　要	赤さび病、小さび病、斑葉病、雲形病
３）ダイズ	指　定	アブラムシ類、吸実性カメムシ類（ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ）、ハスモンヨトウ
	重　要	ダイズサヤムシガ、ウコンノメイガ

２．果樹

１）ナシ	指　定	黒斑病、黒星病、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ、クワオオハダニ）、シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ）、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ）
	重　要	カイガラムシ類（クワコナカイガラムシ）、アブラムシ類
２）カキ	指　定	カキノヘタムシガ、ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ、チャハマキ)、カメムシ類(チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ)
	重　要	炭疽病、うどんこ病、円星落葉病、角斑落葉病、カキクダアザミウマ、フジコナカイガラムシ

３．野菜

１）キャベツ	指　定	黒腐病、菌核病、アブラムシ類（ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナガ、ハスモンヨトウ
	重　要	株腐病、軟腐病、根こぶ病、シロイチモジヨトウ、モンシロチョウ、ヨトウガ、ウワバ類、オオタバコガ
２）タマネギ	指　定	さび病
	重　要	白色疫病、べと病、ボトリチス属菌による葉枯症、腐敗病・軟腐病
３）イチゴ	指　定	灰色かび病、アブラムシ類（ワタアブラムシ、チューリップヒゲナガアブラムシ）、ハスモンヨトウ
	重　要	ハダニ類
４）キク	指　定	アブラムシ類（ワタアブラムシ、キクヒメヒゲナガアブラムシ）

Ⅳ　事業実施組織と本年度の実施方法

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱、同要領に準拠する。

１．病害虫防除所における予察事業担当者

職　名	氏　　名	担　当
科　　長	山 本　　淳	病　害
専門研究員	磯 田　　淳	病　害
〃	小 塚 雅 弘	虫　害
〃	奈良井 祐 隆	虫　害
〃	澤 村 信 生	虫　害
主任研究員	永 島　　進	病　害
〃	福 間 貴 寿	病　害
研　究　員	町 田 清 貴	虫　害
〃	角　菜 津 子	虫　害

２．病害虫防除員

水稲、果樹に関する病害虫防除員は本県の主要産地である市町村に配置している。水稲１７ 名、果樹１名（カキ：益田市）。

３．予察圃場設置一覧

１）県予察圃場

種　類	設 置 場 所	品　　種　　等
イ　　ネ	出雲市芦渡町	コシヒカリ
ム　　ギ	〃	農林61号、アサカゴールド
ナ　　シ	〃	二 十 世 紀　（３９年生樹）
カ　　キ	〃	富　有　（３９年生樹）

２）地区予察圃場

種　　類	設　置　地　点　名
イ　　ネ	邑智郡川本町田窪
ナ　　シ	安来市中津町
カ　　キ	出雲市東福町

４．予察灯・フェロモントラップ設置一覧

病害虫名	設　　置　　地　　点　　名	備　　考
ウ　ン　カ　類	出雲市芦渡町	予察灯
ウ　ン　カ　類	出雲市芦渡町	粘着誘殺灯
ニカメイチュウ	出雲市芦渡町	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ
モモシンクイガ	安来市中津町	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ
ナシヒメシンクイ	安来市中津町	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ
ヨ　ト　ウ　ガ　類	益田市飯田町	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ

Ⅴ　事業内容
１．平成２６年度における調査観察成績
Ⅰ）普通作物等
（Ⅰ）イネ
１．イネの生育状況
育苗期間の４月から５月上旬は低温で、苗の生育がやや遅くなったものの、５月中旬から高温であったことや降雨が少なかったため、苗の生育や作業が順調に進み、田植期は平年及び前年に比べ１日早くなった。
田植後の５月中旬から高温であったことなどから、生育は順調で茎数の増加も早く、多い状況であった。出穂期は好天により生育が早まったことから、梅雨入りが平年よりやや早かったものの、平年に比べて２日早くなった。
田植以降の生育が順調であったため、穂数、１穂籾数とも平年よりやや多くなり、全籾数も平年より多くなった。
８月になってから、日照時間が平年の５割以下と記録的な少なさであったうえに低温で推移したことから、登熟は不良、生育は遅くなったため、８月下旬から天候が回復したが、収量は503kg/10ａと前年より少なく、作況指数は99となった。また、生育が遅くなったことや降雨により、収穫作業も全体に遅くなった。

２ 検査概況
産米の1等比率は、８月の日照時間が記録的に少なかったことや低温により、早い品種では影響が大きく前年より大幅に低下したが、遅い品種では影響が少なく、全体では前年より高くなっている。品種としては「つや姫」、「コシヒカリ」、「きぬむすめ」及び「もち」が良くなった。
また、主な格下げ理由は、青味熟粒、心白粒やカメムシ被害粒などであり、８月の天候の影響が大きかったと推察される。
（2014年産水稲・麦類・大豆の作柄概況（農業技術センター技術普及部）より抜粋）

２．病害虫に関する調査結果
１）葉いもち
（１）発病状況調査
①定点における調査
○県予察ほ場（出雲市芦渡町）

区　別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度	病斑型
普通肥料区	6.16	37.9cm	16.0 本	0 %	0	
	25	47.4	21.7	0	0	
	7. 4	63.8	22.2	0	0	
	15	85.6	21.1	0	0	
	25	95.2	20.1	0	0	
	8. 5	106.3	20.1	0	0	
窒素増量区	6.16	36.6	14.9	0	0	
	25	45.4	20.1	0	0	
	7. 4	59.7	22.1	0	0	
	15	84.0	21.3	0	0	
	25	94.8	20.7	0	0	
	8. 5	106.3	19.7	0	0	

注）調査株数：50株、品種：コシヒカリ(5月7日植え)
○地区予察ほ場（川本町田窪）

区　別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6.17	44.1 cm	12.9 本	0 %	0
	27	55.0	13.6	0	0
	7. 7	67.9	15.2	0	0
	14	84.5	16.7	0	0
	23	94.8	18.1	0	0
	8. 7	110.1	16.5	0	0

注）調査株数：50株、品種：コシヒカリ(5月6日植え)、Dr.ｵﾘｾﾞ箱粒剤処理
②巡回による調査（特定ほ場）
ア．出雲市

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6.16	0 %	0 %	0 %
25	0	0	0
7. 4	0	0	0
15	0	0	0
25	0	0	0
8. 5	0	0	0

注）20ほ場、500株調査

イ．雲南市（大東町、加茂町）

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6.16	0 %	0 %	0 %
25	0	0	0
7. 4	0	0	0
15	5	0.2	0.05
25	10	0.8	0.2
8. 5	10	0.8	0.2

注）20ほ場、500株調査

ウ．大田市、邑智郡、江津市

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6.17	0 %	0 %	0 %
27	0	0	0
7. 7	0	0	0
14	0	0	0
23	3.3	0.3	0.1
8. 7	3.3	0.9	0.2

注）30ほ場、750株調査

③置き苗の発病状況調査

年次	調査時期	発生地点率*
２６	６月第１半旬	0 %
２５	６月第１半旬	0
２４	６月第１半旬	0.5
２３	６月第１半旬	0
２２	６月第１半旬	0
２１	６月第１半旬	0
２０	５月第６半旬	0
１９	５月第６半旬	0
１８	６月第２半旬	1.6
１７	６月第１半旬	0

注）＊：置き苗放置ほ場に対する割合

２）穂いもち

（１）発病状況調査

①定点における調査

○県予察ほ場（出雲市芦渡町）

区　　別	８月25日	
	発病株率	発病穂率
普通肥料区	0 %	0 %
窒素増量区	0	0

注）調査株数：50株

○地区予察ほ場（川本町田窪）

区　　別	８月22日	
	発病株率	発病穂率
普通肥料区	0 %	0 %

注）調査株数：50株

②巡回における調査

調 査 地 域	調査月日	調査ほ場数	発生ほ場率	調査穂数	発病穂率
出雲市	8.25	20	0 %	9468	0 %
雲南市（大東町、加茂町）	8.25	20	25.0	9120	0.04
大田市、邑智郡、江津市	8.22	30	6.7	15167	0.05
合　計・平　均		70	10.0	33755	0.05

３）紋枯病

（１）発病状況調査

①定点における調査

○県予察ほ場（出雲市芦渡町）

区　　別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料	6.16	37.9cm	16.0 本	0 %	0 %
	25	47.4	21.7	0	0
	7. 4	63.8	22.2	0	0
	15	85.6	21.1	0	0
	25	95.2	20.1	0	0
	8. 5	106.3	20.1	0	0
	17	106.3	20.1	0	0
	25	106.3	20.1	0	0
	9. 5	106.3	20.1	0	0
窒素増量区	6.16	36.6	14.9 本	0 %	0 %
	25	45.4	20.1	0	0
	7. 4	59.7	22.1	0	0
	15	84.0	21.3	0	0
	25	94.8	20.7	0	0
	8. 5	106.3	19.7	0	0
	17	106.3	19.7	0	0
	25	106.3	19.7	0	0
	9. 5	106.3	19.7	0	0

注）調査株数：50株、品種：コシヒカリ(5月7日植え)

○地区予察ほ場（川本町田窪）

区　　別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6.17	44.1 cm	12.9 本	0 %	0
	27	55.0	13.6	0	0
	7. 7	67.9	15.2	0	0
	14	84.5	16.7	0	0
	23	94.8	18.1	0	0
	8. 7	110.1	16.5	0	0
	22	110.1	16.5	0	0

注）調査株数：50株、品種：コシヒカリ(5月6日植え)、Dr.ｵﾘｾﾞ箱粒剤処理

②巡回による調査（特定ほ場）

ア．出雲市

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6.16	0 %	0 %	0
25	0	0	0
7. 4	0	0	0
15	0	0	0
25	0	0	0
8. 5	5.0	0.2	0.05
25	10.0	1.2	0.40

注）20ほ場、500株調査

イ．雲南市（大東町、加茂町）

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6.16	0 %	0 %	0
25	5.0	0.2	0.05
7. 4	15.0	1.2	0.30
15	20.0	2.8	0.65
25	25.0	5.0	1.25
8. 5	30.0	7.0	1.85
25	45.0	10.6	3.55

注）20ほ場、500株調査

ウ．大田市、邑智郡、江津市

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6.17	0 %	0 %	0
27	0	0	0
7. 7	0	0	0
14	0	0	0
23	3.3	0.1	0.03
8. 7	10.0	0.7	0.17
22	16.7	2.1	0.93

注）30ほ場、750株調査

4）白葉枯病

（1）発病状況調査

①定点における調査

○県予察圃場（出雲市芦渡町）　　発生はまったく認められなかった。

○地区予察圃場（川本町田窪）　　発生はまったく認められなかった。

5）ヒメトビウンカ

（1）予察灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町	
月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 均
4. 1	0	0.0	6. 1	0	0.0	8. 1	0	0.1
2	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0	3	0	0.2
4	0	0.0	4	0	0.3	4	0	0.2
5	0	0.0	5	0	0.0	5	0	0.8
6	0	0.0	6	0	0.1	6	0	0.6
5. 1	0	0.0	7. 1	0	0.3	9. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.1	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.5	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.2	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.9	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.1	6	0	0.0
						総計	0	4.4

（２）定点と巡回による調査

①６月24～27日調査

	圃場数	成虫数	幼虫数	合計
東部平坦	24	1	1	2
東部山間	8	0	0	0
西部平坦	16	0	0	0
西部山間	6	0	0	0
合　計	54	1	1	2
平　均		0.02	0.02	0.04
圃場率		1.9	1.9	1.9
成虫比				50
ウンカ比				6.5

注）調査方法：50株払い落し（粘着板使用）

②８月１～７日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	22	5	2	7
東部山間	0	0	0	0
西部平坦	16	7	0	7
西部山間	0	0	0	0
合　計	38	12	2	14
平　均		0.3	0.1	0.4
圃場率		28.9	2.6	31.6
成虫比				85.7
ウンカ比				4.5

注）調査方法：25株払い落し（粘着板使用）

③９月９～11日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	18	41	6	47
東部山間	0	0	0	0
西部平坦	12	14	15	29
西部山間	2	14	0	14
合　計	32	69	21	90
平　均		2.2	0.7	2.8
圃場率		56.3	21.9	56.3
成虫比				76.7
ウンカ比				25.6

注）調査方法：25株払い落し（粘着板使用）

６）ツマグロヨコバイ

（１）予察灯による成虫の誘殺状況

地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町	
月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 均
4．1	0	0.0	6．1	0	0.1	8．1	5	31.5
2	0	0.0	2	0	0.2	2	3	24.4
3	0	0.0	3	0	0.0	3	0	30.8
4	0	0.1	4	0	0.6	4	0	17.6
5	0	0.1	5	0	2.4	5	0	27.8
6	0	0.3	6	2	3.7	6	6	39.8
5．1	0	1.6	7．1	7	7.2	9．1	2	29.3
2	0	0.4	2	11	11.6	2	0	61.1
3	0	0.0	3	17	17.4	3	0	28.8
4	0	0.0	4	13	28.6	4	0	21.3
5	0	0.0	5	27	333.7	5	0	10.3
6	0	0.0	6	18	67.8	6	0	4.4
						総計	111	802.9

（２）定点と巡回による調査
①６月24～27日調査

		成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	9	4	13
東部山間	8	0	0	0
西部平坦	16	2	0	2
西部山間	6	0	0	0
合　計	54	11	4	15
平　均		0.2	0.07	0.28
圃場率		9.3	5.6	11.1
成虫比				73.3

注）調査方法：50株払い落し（粘着板使用）

②８月１～７日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	22	34	81	115
東部山間	0	0	0	0
西部平坦	16	6	23	29
西部山間	0	0	0	0
合　計	38	40	104	144
平　均		1.1	2.7	3.8
圃場率		26.3	47.4	52.6
成虫比				27.8

注）調査方法：25株払い落し（粘着板使用）

③９月９～11日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	18	37	161	198
東部山間	0	0	0	0
西部平坦	12	10	58	68
西部山間	2	0	13	13
合　計	32	47	232	279
平　均		1.5	7.3	8.7
圃場率		37.5	43.8	46.9
成虫比				16.8

注）調査方法：25株払い落し（粘着板使用）

7）ニカメイチュウ
（１）予察灯による成虫の誘殺状況
①半旬別誘殺表

地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町	
月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 均
4．1	0	0.0	6．1	19	4.6	8．1	1	1.5
2	0	0.0	2	5	1.9	2	0	0.9
3	0	0.0	3	7	1.1	3	0	1.9
4	0	0.0	4	2	2.3	4	0	1.7
5	0	0.0	5	3	1.6	5	1	0.5
6	0	0.0	6	0	1.0	6	0	0.8
5．1	1	0.3	7．1	0	1.2	9．1	0	0.1
2	2	0.3	2	0	0.8	2	0	0.0
3	2	0.8	3	0	0.4	3	0	0.1
4	7	0.4	4	0	0.0	4	0	0.0
5	18	2.6	5	3	0.2	5	0	0.0
6	17	8.2	6	10	0.6	6	0	0.0
						総計	98	35.8

（２）定点と巡回による調査

	６月24～27日		８月１～７日		９月９～11日	
	圃場数	被害株数	圃場数	被害株数	圃場数	被害株数
東部平坦	24	3	22	0	18	0
東部山間	8	0	0	0	0	0
西部平坦	16	0	16	0	12	0
西部山間	6	0	0	0	2	0
合計	54	3	38	0	32	0
平均	0.06		0		0	
圃場率	5.6		0		0	
被害株率	0.002		0		0	

注）調査方法：25株見取り調査

８）セジロウンカ

（１）予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

地　点	出雲市芦渡町			
	６０W白熱		２０W粘着	
月．半旬	本　年	平　年	本　年	平　年
６．１	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	1.0	0	0.8
5	0	21.2	0	1.9
6	0	40.3	0	5.1
７．１	0	45.3	0	64.9
2	0	15.6	0	72.2
3	8	246.8	13	683.1
4	5	8.8	1	61.8
5	0	5.8	0	10.2
6	0	16.3	1	37.8
８．１	1	4.4	11	19.8
2	0	5.4	2	18.2
3	0	20.5	11	25.7
4	0	6.6	3	10.0
5	1	16.2	5	24.9
6	18	32.3	16	202.3
９．１	0	6.2	1	18.6
2	0	4.0	0	19.9
3	0	2.0	0	2.6
4	0	3.1	0	3.1
5	0	0.8	0	1.3
6	0	0.0	0	0.1
総　計	33	502.6	64	1284.3

注）予察灯は４～９月（４～５月はデータ省略）、粘着誘殺灯は６～９月の間設置した。

（２）定点と巡回による調査

①６月24～27日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	0	0	0
東部山間	8	0	0	0
西部平坦	16	2	27	29
西部山間	6	0	0	0
合　計	54	2	27	29
平　均		0.04	0.5	0.54
圃場率		3.7	9.3	9.3
成虫比				6.9
ウンカ比				93.5

②８月１～７日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	22	31	187	218
東部山間	0	0	0	0
西部平坦	16	31	30	61
西部山間	0	0	0	0
合　計	38	62	217	279
平　均		1.6	5.7	7.3
圃場率		65.8	71.1	89.5
成虫比				22.2
ウンカ比				90.6

注）調査方法：25株払い落し（粘着板使用）

③９月９～11日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	18	13	4	17
東部山間	0	0	0	0
西部平坦	12	22	18	40
西部山間	2	0	0	0
合　計	32	35	22	57
平　均		1.1	0.7	1.8
圃場率		40.6	15.6	46.9
成虫比				61.4
ウンカ比				16.2

注）調査方法：25株払い落し（粘着板使用）

9）トビイロウンカ

（１）予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

地　点	出雲市芦渡町			
	６０W白熱		２０W粘着	
月．半旬	本年	平年	本年	平年
６．１	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.1
７．１	0	0.2	0	0.2
2	0	0.4	0	1.1
3	1	0.6	0	0.2
4	0	0.9	0	4.2
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.2
８．１	0	0.4	0	1.1
2	0	0.6	0	0.3
3	0	1.0	0	0.1
4	0	0.2	0	0.8
5	0	0.5	0	2.5
6	0	8.2	0	42.1
９．１	0	0.5	2	4.3
2	0	0.8	0	7.9
3	0	0.0	0	0.1
4	0	0.3	1	0.2
5	0	0.0	4	0.0
6	0	0.0	0	0.5
総計	1	14.6	7	65.9

注）予察灯は４～９月（４～５月はデータ省略）、粘着誘殺灯は６～９月の間設置した。

（２）定点と巡回による調査

①６月24～27日調査

	圃場数	短雌	長雌	短雄	長雄	幼虫	合計
東部平坦	24	0	0	0	0	0	0
東部山間	8	0	0	0	0	0	0
西部平坦	16	0	0	0	0	0	0
西部山間	6	0	0	0	0	0	0
合　計	54	0	0	0	0	0	0
平　均		0	0	0	0	0	0
圃場率		0	0	0	0	0	0
成虫比							
ウンカ比							0

注）調査方法：50株払い落し（粘着板使用）

②８月１～７日調査

	圃場数	短雌	長雌	短雄	長雄	幼虫	合計
東部平坦	22	1	0	0	0	8	9
東部山間	0	0	0	0	0	0	0
西部平坦	16	0	0	0	0	6	6
西部山間	0	0	0	0	0	0	0
合　計	38	1	0	0	0	14	15
平　均		0	0	0	0	0.4	0.395
圃場率		2.6	0	0	0	21.1	21.1
成虫比							6.7
ウンカ比							6

注）調査方法：25株払い落し（粘着板使用）

③９月９～11日調査

	圃場数	短雌	長雌	短雄	長雄	幼虫	合計
東部平坦	18	12	12	1	11	20	56
東部山間	0	0	0	0	0	0	0
西部平坦	12	1	8	1	11	23	44
西部山間	2	0	22	0	10	72	104
合　計	32	13	42	2	32	115	204
平　均		0.4	1.3	0.1	1	3.6	6.375
圃場率		18.8	46.9	6.3	50	53.1	75
成虫比							43.6
ウンカ比							72.8

注）調査方法：25株払い落し（粘着板使用）

１０）コブノメイガ

（１）予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

地　点	出雲市芦渡町			
	６０Ｗ白熱		２０Ｗ粘着	
月．半旬	本年	平年	本年	平年
６．１	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.1
6	0	0.0	0	0.0
７．１	0	0.0	0	0.6
2	0	0.0	0	0.1
3	0	0.1	0	0.2
4	0	0.0	0	0.4
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.3
８．１	0	0.0	0	2.2
2	0	0.0	0	0.7
3	0	0.1	0	0.2
4	0	0.1	0	0.2
5	0	0.8	0	1.1
6	0	0.2	0	0.2
９．１	0	0.1	0	1.6
2	0	0.5	0	3.2
3	0	0.5	0	5.2
4	0	0.3	0	1.9
5	0	0.4	0	0.8
6	0	0.0	0	1.2
総　計	0	3.2	0	20.2

注）予察灯は４～９月（４～５月はデータ省略）、粘着誘殺灯は６～９月の間設置した。

（３）定点と巡回による調査

①６月24～27日調査

	圃場数	50株当り成虫	20株当り被害株
東部平坦	24	0	0
東部山間	8	0	0
西部平坦	16	0	0
西部山間	6	0	0
合　計	54	0	0
平　均		0	0
圃場率		0	0
被害株率			0

②８月１～７日調査

	圃場数	25株当り成虫数	25株当り被害株
東部平坦	22	0	0
東部山間	0	0	0
西部平坦	16	0	0
西部山間	0	0	0
合　計	38	0	0
平　均		0	0
圃場率		0	0
被害株率			0

③９月９～11日調査

	圃場数	25株当り成虫数	25株当り被害株
東部平坦	18	0	0
東部山間	0	0	0
西部平坦	12	0	0
西部山間	2	0	0
合　計	32	0	0
平　均		0	0
圃場率		0	0
被害株率			0

１１）イネミズゾウムシ

（１）予察灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町	
月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本　年	平　均
４．１	0	0.0	６．１	2	0.8	８．１	6	7.7
2	0	0.0	2	1	1.3	2	6	7.7
3	0	0.0	3	1	0.0	3	2	3.0
4	0	0.3	4	0	1.9	4	0	2.0
5	0	0.0	5	0	12.5	5	0	1.0
6	0	9.8	6	0	30.3	6	0	1.5
５．１	0	9.4	７．１	0	18.4	９．１	0	0.9
2	1	46.9	2	1	15.2	2	0	0.0
3	1	6.0	3	1	6.8	3	0	0.1
4	1	12.5	4	32	9.8	4	0	0.0
5	1	6.0	5	20	9.1	5	0	0.0
6	16	10.5	6	3	18.7	6	0	0.0
						総 計	95	249.5

（２）巡回による調査

①５月26～29日調査

		被害程度別株数(25株/圃場)					
	圃場数	A	B	C	D	E	計
西部平坦	10	0	2	22	38	188	250
西部山間	2	0	0	4	6	40	50
合　計	12	0	2	26	44	178	300
平　均		0	0.05	0.62	1.05	4.24	5.96
被害株率							24.0
被 害 度							8.5

イネミズ被害程度（被害葉率）Ａ：91%以上，Ｂ：61～90%，Ｃ：31～60%，Ｄ：１～30%，Ｅ：０

１２）カメムシ類

（１）予察灯によるアカスジカスミカメ成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町	
月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 年	月.半旬	本 年	平 均
４．１	0	0.0	６．１	2	0.5	８．１	7	9.4
2	0	0.0	2	2	0.7	2	2	5.7
3	0	0.0	3	3	1.1	3	0	5.3
4	0	0.0	4	7	1.9	4	3	4.6
5	0	0.0	5	3	3.7	5	2	4.0
6	0	0.0	6	23	13.0	6	2	6.5
５．１	0	0.0	７．１	47	18.2	９．１	0	2.0
2	0	0.0	2	43	30.5	2	0	1.6
3	0	0.0	3	26	33.1	3	0	1.0
4	0	0.0	4	19	28.6	4	0	0.2
5	1	0.7	5	28	19.3	5	0	0.0
6	1	1.3	6	11	14.7	6	1	0.0
						総 計	233	207.1

（２）巡回による調査

①６月26～27日調査（畦畔・雑草地など）

	圃場数	すくい取り虫数（20回振り・成幼虫）						
		ﾎｿﾊﾘ	ｼﾗﾎｼ	ﾄｹﾞｼﾗﾎｼ	ｸﾓﾍﾘ	ｱｶｽｼﾞ	ｱｶﾋｹﾞ	合 計
平 均	16	0	0	0	0	27.1	0	27.1
採取圃場率		0	0	0	0	68.8	0	－

②７月14～15日調査（極早生品種が出穂した圃場）

	圃場数	すくい取り虫数（20回振り・成幼虫）						
		ﾎｿﾊﾘ	ｼﾗﾎｼ	ﾄｹﾞｼﾗﾎｼ	ｸﾓﾍﾘ	ｱｶｽｼﾞ	ｱｶﾋｹﾞ	合 計
平 均	16	0.19	0	0.08	0.88	7.89	12.27	21.3
採取圃場率		15.4	0	3.8	23.1	80.8	73.1	－

（Ⅱ）ムギ

１．ムギの生育状況

１）生育概況

麦類の播種は11月から始まり、断続的な降雨により作業は前年より全体に遅れていたが、11月中に播種作業は終了した。播種後に降雨日が多く、発芽不良のほ場が散見される。また、12月の低温傾向により、生育は平年よりやや遅れており、特に11月中下旬播種のものが遅れている。1月中旬から高温で推移したが、２月上旬が低温であったため、生育は遅れたまま推移したが、３中旬以降の高温により生育はやや回復した。

出穂は二条大麦、はだか麦で３月下旬から4月中旬、小麦で4月下旬頃となり、二条大麦、はだか麦はほぼ平年並みの生育進度に回復した。出穂期以降は、平年より降水量が少なく、日照時間が多く推移したため、成熟期は二条大麦、はだか麦は平年よりやや早くなり、小麦は平年並みとなりました。また、病害は出穂以降の好天や適期防除などにより少なかった。梅雨入りは６月４日と平年よりやや早かったものの降雨が少なく、収穫作業は二条大麦、はだか麦で５月下旬から６月中旬まで、小麦で６月中旬から順調に行われた。

２）作柄および検査概況

播種作業が降雨により全体に遅れ、遅く播種したものを中心に穂数が少なくなり、平年に比べると小麦、二条大麦は不良となったが、はだか麦は平年より良く、収量の平年対比は小麦が82%、二条大麦は91%、はだか麦は107%であった。品質は収穫時期に降雨の影響も少なく、順調に収穫できたため、はだか麦を除いて前年より良い結果となった。

（2014年産水稲・麦類・大豆の作柄概況（農業技術センター技術普及部）より抜粋）

２）生育状況調査
○県予察圃場（出雲市芦渡町）

品　種　名	H26年３月20日		３月31日	４月10日
	草　　丈	茎数（100cm）	草　　丈	草　　丈
アサカゴールド	31.1 cm	172.7　本	58.6 cm	76.6 cm
サチホゴールデン	34.9	166.3	60.8	67.8
農林61号	45.2	116.3	63.0	74.8

注）播種日と出穂期
アサカゴールド：H25年11月12日、H26年４月10日
サチホゴールデン：H25年11月12日、H26年４月３日
農林61号：H25年10月30日、H26年４月13日

２．病害虫に関する調査結果
１）さび病類、うどんこ病、斑葉病、雲形病、赤かび病
（１）発病状況調査
①定点における調査
○県予察圃場（出雲市芦渡町）

品　種　名	さび病類			雲形病		
	４月10日	４月21日	５月15日	４月10日	４月21日	５月15日
アサカゴールド	0　%	0　%	0　%	0　%	26　%	53　%
サチホゴールデン	0	0	0	0	0	0
農林61号	0	0	0	－	－	－

注）表中の数字は発病茎率
うどんこ病、斑葉病、赤かび病の発生はみられなかった。

②巡回による調査
ア．オオムギ(二条)

調査月日	調査場所	調査圃場数	小さび病		うどんこ病		赤かび病		斑葉病	
			発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率
26.3.25	出雲市	40	0　%	0　%	0　%	0　%	－%	－　%	0　%	0　%
4.24	出雲市	40	0	0	0	0	0	0	0	0
5.15	出雲市	40	0	0	0	0	5.0	0.05	0	0

注）黄さび病、雲形病の発生は認められなかった。

イ．オオムギ(六条)

調査月日	調査場所	調査圃場数	小さび病		うどんこ病		赤かび病		雲形病	
			発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率
26.3.25	出雲市	5	0　%	0　%	0　%	0　%	－%	－　%	0　%	0　%
4.24	出雲市	5	0	0	0	0	0	0	0	0
5.15	出雲市	5	0	0	0	0	0	0	0	0

注）黄さび病、斑葉病の発生は認められなかった。

ウ．コムギ

調査月日	調査場所	調査圃場数	小さび病		うどんこ病		赤かび病	
			発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率	発生圃場率	発病茎率
26.3.27	出雲市	20	0　%	0　%	0　%	0　%	－%	－　%
3.27	松江市	8	0	0	0	0	－	－
4.28	出雲市	20	0	0	0	0	0	0
5.15	出雲市	20	0	0	0	0	15.0	0.15

注）黄さび病の発生は認められなかった。

（Ⅲ）ダイズ

１．**病害虫に関する調査結果**

１）ハスモンヨトウ

（１）フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

キャベツのハスモンヨトウの項に掲載。

（２）被害状況調査

①巡回による調査（斐川地区）

調査月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	1a当り白変か所数
2014. 8.28	17	11.8	0.18
9.26	26	15.4	0.15

Ⅱ）果樹
（Ⅰ）ナシ
１．病害虫に関する調査結果
１）黒斑病、黒星病
（１）発病状況調査（１圃場10新梢の全葉について調査。４月下旬は幼果について１圃場100果実調査）
①定点における調査
地区予察圃場（安来市中津町、二十世紀、慣行散布）調査結果は圃場NO.7に記載。
②巡回による調査（安来市、二十世紀、慣行散布）

ア．2014年４月24日調査

圃場 NO.	調査 葉数	落葉率(%)	調査 生葉数	黒斑病 発病葉率(%)	黒斑病 発病度	黒星病 発病葉率(%)	黒星病 発病度
５	63	0	63	0	0	0	0
７	73	0	73	0	0	0	0
８	77	0	77	0	0	0	0
１０	78	0	78	0	0	0	0
１４	78	0	78	0	0	0	0
１５	57	0	57	0	0	0	0
１６	61	0	61	0	0	0	0
１７	76	0	76	0	0	0	0
平均	70.4	0	70.4	0	0	0	0

圃場 NO.	調査 幼果数	黒星病 発病幼果率(%)
５	100	0
７	100	0
８	100	0
１０	100	0
１４	100	0
１５	100	0
１６	100	0
１７	100	0
平均	100	0

イ．５月28日調査

圃場 NO.	調査 葉数	落葉率(%)	調査 生葉数	黒斑病 発病葉率(%)	黒斑病 発病度	黒星病 発病葉率(%)	黒星病 発病度
５	145	0	145	0	0	0	0
７	130	0	130	1.5	0.4	0	0
８	138	0	138	0	0	0	0
１０	134	0	134	0	0	0	0
１４	132	0	132	0	0	0	0
１５	120	0	120	0	0	0	0
１６	93	0	93	3.2	0.8	0	0
１７	144	0	144	2.1	0.5	0	0
平均	129.5	0	129.5	0.9	0.2	0	0

ウ．６月26日調査

圃場 NO.	調査 葉数	落葉率(%)	調査 生葉数	黒斑病 発病葉率(%)	黒斑病 発病度	黒星病 発病葉率(%)	黒星病 発病度
5	198	0	198	0.5	0.1	0	0
7	171	0	171	12.3	3.2	0.6	0.2
8	188	0	188	27.1	7.2	1.1	0.3
１０	208	0	208	7.2	1.8	1.4	0.4
１４	197	0	197	1.0	0.3	0	0
１５	190	0	190	2.1	0.5	0	0
１６	173	0	173	5.8	1.5	0.6	0.1
１７	214	0	214	0.5	0.1	0	0
平均	192.4	0	192.4	7.1	1.8	0.5	0.1

エ．８月１日調査

圃場 NO.	調査 葉数	落葉率(%)	調査 生葉数	黒斑病 発病葉率(%)	黒斑病 発病度	黒星病 発病葉率(%)	黒星病 発病度
5	212	0	212	0.5	0.1	0	0
7	182	3.3	176	19.3	6.0	0.6	0.1
8	188	1.6	185	36.8	15.3	0	0
１０	199	0	199	16.1	4.7	1.0	0.3
１４	196	0	196	3.6	0.9	0	0
１５	242	0	242	1.7	0.4	0	0
１７	262	0	262	0.8	0.2	0	0
平均	211.6	0.7	210.3	11.2	3.9	0.2	0.1

オ．８月27日調査

圃場 NO.	調査 葉数	落葉率(%)	調査 生葉数	黒斑病 発病葉率(%)	黒斑病 発病度	黒星病 発病葉率(%)	黒星病 発病度
5	218	0	218	1.4	0.3	0	0
7	183	7.1	170	27.6	10.9	0	0
8	177	6.8	165	37.0	19.6	0	0
１０	201	1.5	198	23.2	11.0	1.0	0.3
１４	201	0	201	2.0	0.5	0	0
１５	245	0.4	244	0.4	0.1	0	0
１７	199	0	199	3.0	0.8	0	0
平均	202.0	2.4	197.6	12.8	5.7	0.1	0.03

2）ナシヒメシンクイ
（１）予察灯による成虫の誘殺状況
①半旬別誘殺表

月・半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町）				地区予察圃場(安来市中津町)	
	水銀灯（１００W）		フェロモントラップ		フェロモントラップ	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
４．１	0	0.0	0	0.7	0	4.2
2	0	0.0	0	0.8	0	3.7
3	0	0.0	5	2.7	0	49.3
4	0	0.0	6	5.9	24	39.7
5	0	0.0	0	1.8	18	39.3
6	0	0.0	0	4.5	27	23.7
５．１	0	0.0	0	5.1	34	48.2
2	0	0.0	2	2.8	41	34.7
3	0	0.0	0	1.3	0	22.7
4	0	0.0	0	2.5	12	10.5
5	0	0.0	0	0.5	21	14.8
6	0	0.0	0	0.8	0	5.7
６．１	0	0.0	0	3.0	0	11.7
2	0	0.0	10	7.4	22	14.8
3	0	0.0	0	3.9	36	21.2
4	0	0.0	0	3.7	51	21.3
5	0	0.0	0	2.6	0	54.6
6	0	0.0	0	1.0	24	29.2
７．１	0	0.0	0	0.7	0	6.2
2	0	0.0	1	6.0	13	43.1
3	0	0.0	3	7.3	21	24.2
4	0	0.0	0	8.7	0	55.5
5	0	0.0	6	5.7	42	23.9
6	0	0.0	4	2.1	15	44.3
８．１	0	0.0	1	6.7	0	13.0
2	0	0.0	2	10.1	5	36.6
3	0	0.0	5	5.8	5	14.8
4	0	0.0	0	5.1	19	21.7
5	0	0.0	2	2.8	33	35.6
6	0	0.1	0	2.0	0	13.6
９．１	0	0.0	0	5.2	0	14.8
2	0	0.0	5	1.4	0	21.4
3	0	0.0	3	1.5	0	11.4
4	0	0.0	0	0.3	0	8.0
5	0	0.0	0	0.0	0	8.6
6	0	0.0	0	0.0	0	0.3
１０．１	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.1	55	122.4	463	846.2

3）ナシオオシンクイガ

（1）予察灯による成虫の誘殺状況

月・半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 本　年	平　年	月・半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 本　年	平　年
4. 1	0	0.0	8. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
5. 1	0	0.0	9. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
6. 1	0	0.0	10. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
7. 1	0	0.0	合計	0	0.0
2	0	0.0			
3	0	0.0			
4	0	0.0			
5	0	0.0			
6	0	0.0			

4）モモシンクイガ

（1）フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表（モモシンクイガ）

月・半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 本年	平年	地区予察圃場（安来市中津町） 本年	平年	月・半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 本年	平年	地区予察圃場（安来市中津町） 本年	平年
5．1	0	0.0	0	0.0	8．1	0	0.0	0	8.1
2	0	0.0	0	0.0	2	0	0.0	0	21.5
3	0	0.0	0	0.0	3	0	0.0	55	22.9
4	0	0.0	0	0.0	4	0	0.0	0	13.2
5	0	0.0	0	0.0	5	0	0.0	20	19.9
6	0	0.0	0	1.2	6	0	0.0	0	9.4
6．1	0	0.0	0	4.8	9．1	0	0.0	0	2.9
2	0	0.0	44	18.9	2	0	0.0	0	3.4
3	0	0.0	0	28.3	3	0	0.0	6	1.6
4	0	0.0	14	31.8	4	0	0.0	0	0.9
5	0	0.0	32	40.8	5	0	0.0	0	1.7
6	0	0.0	0	25.9	6	0	0.0	0	0.0
7．1	0	0.0	20	7.0	１０．1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	21.5	2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	19	19.8	3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	31.7	4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	35	11.6	5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	48	15.9	6	0	0.0	0	0.0
				合　計		0	0.0	293	364.6

5）チャノコカクモンハマキ

（１）成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

月 半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町）				月 半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町）			
	水銀灯(100W)		ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ			水銀灯(100W)		ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ	
	本年	平年	本年	平年		本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	0	0.3	8. 1	0	0.0	4	17.8
2	0	0.0	0	1.3	2	0	0.1	2	13.3
3	0	0.0	0	3.9	3	1	0.2	0	6.7
4	0	0.0	5	4.9	4	0	0.2	0	3.8
5	0	0.7	2	5.6	5	0	0.3	1	3.8
6	0	0.3	3	9.4	6	0	0.6	1	2.8
5. 1	0	0.6	0	14.1	9. 1	0	0.0	0	5.7
2	0	0.6	7	16.7	2	1	1.1	2	12.9
3	0	0.0	0	8.3	3	2	0.5	0	23.6
4	1	0.3	5	7.3	4	0	0.6	0	13.6
5	0	0.8	2	4.6	5	0	0.1	0	5.2
6	1	0.1	0	2.2	6	0	0.0	0	2.9
6. 1	0	0.1	0	1.1	10. 1	1	0.2	0	3.8
2	1	0.5	6	1.5	2	0	0.0	0	6.9
3	1	0.4	2	1.4	3	0	0.0	0	13.3
4	0	0.5	0	8.5	4	2	0.1	0	4.9
5	1	0.8	0	8.4	5	0	0.1	0	2.2
6	0	0.2	0	8.3	6	0	0.0	0	3.3
7. 1	0	0.5	0	11.8	合　計	12	15.0	45	285.3
2	0	0.8	0	4.8					
3	0	0.6	3	4.4					
4	0	0.4	0	3.4					
5	0	2.2	0	3.3					
6	0	0.5	0	3.3					

6）チャハマキ
（1）成虫の誘殺状況
①半旬別誘殺表

月・半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 水銀灯(100W) 本年	水銀灯(100W) 平年	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ 本年	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ 平年	月・半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町） 水銀灯(100W) 本年	水銀灯(100W) 平年	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ 本年	ﾌｪﾛﾓﾝﾄﾗｯﾌﾟ 平年
4. 1	0	0.0	0	0.0	8. 1	2	0.3	0	7.6
2	0	0.0	0	0.5	2	0	0.5	0	4.6
3	0	0.1	3	1.2	3	1	0.4	6	2.8
4	0	0.1	5	2.8	4	0	0.6	0	1.5
5	0	0.1	3	2.5	5	1	0.5	0	1.4
6	0	0.0	0	1.2	6	2	0.0	0	2.8
5. 1	0	0.2	0	3.2	9. 1	0	0.2	0	3.6
2	0	0.3	0	3.2	2	0	0.4	3	6.7
3	0	0.3	1	3.3	3	1	0.2	0	2.6
4	0	0.9	0	1.1	4	0	0.0	0	1.7
5	0	0.4	2	1.7	5	0	0.7	0	1.9
6	1	0.5	0	0.4	6	0	0.0	0	1.1
6. 1	1	1.0	2	0.8	10. 1	0	0.0	0	1.4
2	0	1.8	0	0.3	2	0	0.3	0	3.8
3	1	0.7	0	0.3	3	0	0.0	0	2.9
4	0	0.4	0	0.4	4	0	0.0	0	1.8
5	0	1.3	0	1.0	5	0	0.0	0	0.2
6	0	0.1	6	1.5	6	0	0.0	0	0.0
7. 1	1	0.2	1	1.7	合　計	11	13.6	37	88.4
2	0	0.3	0	1.7					
3	0	0.3	0	2.9					
4	0	0.2	5	3.1					
5	0	0.3	0	2.2					
6	0	0.0	0	3.0					

7）ハダニ類、カイガラムシ類
（1）越冬バンドトラップによる越冬密度調査

調査場所	カンザワハダニ 本年	カンザワハダニ 平年	クワコナカイガラムシ 本年	クワコナカイガラムシ 平年
中津町地区圃	0.0	0.1	0.0	0.0
〃　2	0.6	0.0	0.0	0.0
〃　3	0.0	0.4	0.0	0.0
〃　4	0.0	0.5	0.0	0.0
島田町　1	0.0	1.8	0.0	0.0
〃　2	5.0	3.0	0.0	0.0
〃　3	0.0	0.0	0.0	0.0
〃　4	0.0	0.0	0.0	0.1
平　均	5.6	5.9	0.0	0.01

注）1．トラップは幅20cmのクラフト紙を太枝に巻き付けた。
　　2．1圃3個設置。　トラップ当り虫数。

（２）発生状況調査
①巡回による調査（特定圃場）

調査月日	4/24	5/28		6/26		7/31		8/27	
圃 場 №.	花叢率	寄生葉率	寄生虫数	寄生葉率	寄生虫数	寄生葉率	寄生虫数	寄生葉率	寄生虫数
	%	%		%		%		%	
地区予察圃１	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	46.0	67.5	8.0	47.5
２	20.0	6.0	7.5	26.0	37.5	46.0	172.5	34.0	47.5
３	18.0	0.0	0.0	2.0	2.5	8.0	10.0	4.0	5.0
４	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	98.0	377.5	27.5	32.5
島　田　１	2.0	0.0	0.0	14.0	17.5	4.0	5.0	0.0	0.0
２	2.0	10.0	12.5	34.0	87.5	0.0	0.0	0.0	0.0
３	0.0	0.0	0.0	2.0	2.5	28.6	60.0	6.0	7.5
４	0.0	0.0	0.0	2.0	2.5	0.0	0.0	21.2	37.5
平　均	8.9	2.3	2.9	10.9	26.3	28.8	86.6	12.6	22.2

注）１．50花叢・50葉調査
２．寄生雌成虫数は寄生程度別葉数から算出
寄生程度
Ａ：１～５　頭／葉　　虫数＝2.5Ａ＋7.5Ｂ＋15Ｃ＋25Ｄ
Ｂ：６～10
Ｃ：11～20
Ｄ：21～
Ｅ：０

８）アブラムシ類

（１）発生状況調査
①巡回による調査（特定圃場）

調査月日	4/25		5/28		6/26	
圃場№.	寄生梢率	寄生度	寄生梢率	寄生度	寄生梢率	寄生度
地区予察圃場１	0.0　%	0.0	2.0　%	3.0	0.0　%	0.0
２	0.0	0.0	4.0	1.0	24.0	6.0
３	0.0	0.0	6.0	2.0	8.0	2.0
４	0.0	0.5	2.0	0.5	6.0	2.5
島　田　１	0.0	0.5	28.0	11.0	4.0	4.0
２	0.0	0.0	2.0	1.0	0.0	0.0
３	0.0	0.0	4.0	2.5	0.0	0.0
４	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平　均	0.0	0.0	6.0	2.6	5.3	1.8

注）1. 圃場当り50梢調査。

2. 寄生度＝ $\dfrac{４Ａ＋３Ｂ＋２Ｃ＋Ｄ}{４×Ｎ（調査新梢数）}$ ×１００

Ａ：先端４葉全てに寄生
Ｂ：〃３葉に寄生
Ｃ：〃２葉〃
Ｄ：〃１葉〃
Ｅ：寄生なし

（Ⅱ）カキ

１．病害虫に関する調査結果

１）炭疽病

（１）発病状況調査

（６～８月に１圃場１樹50新梢、７～８月に１圃場１樹50果実について調査）

①定点における調査

地区予察圃場（出雲市東福町、富有、慣行散布）調査結果は圃場NO.１に記載

②巡回による調査（出雲市、慣行散布）

２）うどんこ病、灰色かび病、果実黒すじ病

（１）発病状況調査（１圃場１樹10新梢の全葉について調査。灰色かび病、果実黒すじ病については７～８月に１圃場１樹50果実について調査）

①定点における調査

地区予察圃場（出雲市東福町、富有、慣行散布）調査結果は圃場NO.１に記載

②巡回による調査（出雲市、慣行散布）

ア．2014年４月25日

調査園No.	調査葉数	落葉率	灰色かび病 発病葉率	備考(品種)
1	63	0 %	1.6%	富　有
6	61	0	1.6	西　条
8	53	0	0	西　条
10	76	0	1.3	富　有
11	53	0	1.9	富　有
12	65	0	0	富　有
13	54	0	5.6	富　有
14	77	0	0	富　有
平　均	63.8	0	1.5	

イ．６月27日

調査園No.	調査葉数	落葉率	炭疽病	うどんこ病		灰色かび病
			発病枝率	発病葉率	発病度	発病葉率
1	68	0 %	0 %	0 %	0	0 %
6	88	0	0	0	0	0
8	57	0	0	0	0	3.5
10	80	0	0	0	0	0
11	89	0	0	0	0	0
12	96	0	0	0	0	0
13	69	0	0	0	0	0
14	77	0	0	0	0	0
平　均	78.0	0	0	0	0	0.5

ウ．８月６日

調査園No.	調査葉数	落葉率	炭疽病	うどんこ病		灰色かび病
			発病枝率	発病葉率	発病度	発病葉率
1	79	0 %	0 %	0 %	0	0 %
6	82	2.4	0	0	0	0
8	75	0	0	8.0	4.0	4.0
10	76	0	0	0	0	0
12	85	0	0	2.4	0.6	1.2
13	75	0	0	0	0	0
14	100	0	0	0	0	0
平　均	81.7	0.5	0	1.5	0.7	0.7

調査園No.	調査果数	炭疽病	灰色かび病	果実黒すじ病
		発病果率	発病果率	発病果率
1	50	0 %	2.0%	0 %
6	50	0	0	0
8	50	0	0	0
10	50	0	2.0	0
12	50	0	0	0
13	50	0	0	0
14	50	0	0	0
平均	50.0	0	0.6	0

エ．８月28日

調査園No.	調査葉数	落葉率	炭疽病	うどんこ病	
			発病枝率	発病葉率	発病度
1	94	0 %	0 %	19.1%	5.1
6	91	2.2	0	1.1	0.3
8	76	0	0	34.2	17.1
10	89	2.3	0	2.3	0.6
11	100	3.0	0	4.1	1.3
12	98	0	0	6.1	1.8
13	90	0	0	0	0
14	92	0	0	0	0
平　均	91.3	0.9	0	8.4	3.3

調査園No.	調査果数	炭疽病	灰色かび病	果実黒すじ病
		発病果率	発病果率	発病果率
1	50	0 %	0 %	0 %
6	50	0	0	0
8	50	0	0	0
10	50	0	0	0
11	50	0	0	0
12	50	0	0	0
13	50	0	0	0
14	50	0	0	0
平均	50.0	0	0	0

3）カキミガ

（１）予察灯による成虫の誘殺状況

県予察圃場（出雲市芦渡町）での誘殺は認めなかった。

（２）被害の発生消長調査

平田市の一般圃場５園において５月下旬～８月下旬に５回各園100果について調査を行ったが被害は認めなかった。

4）カメムシ類

（１）予察灯による成虫の誘殺状況（水銀灯100W）

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

月・半旬	ﾁｬﾊﾞﾈｱｵｶﾒﾑｼ		ｸｻｷﾞｶﾒﾑｼ		ﾂﾔｱｵｶﾒﾑｼ		ｱｵｸｻｶﾒﾑｼ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5. 1	0	2.9	0	0.0	0	0.3	0	0.0
2	0	19.3	0	1.3	0	0.1	0	0.0
3	6	3.0	0	0.2	0	0.1	0	0.2
4	18	2.7	0	0.4	14	0.5	0	0.0
5	17	4.9	0	0.4	29	0.6	0	0.0
6	34	10.4	3	0.5	15	3.9	0	0.0
6. 1	0	1.3	0	0.1	0	1.2	0	0.0
2	0	3.6	0	0.7	0	1.8	0	0.0
3	4	9.0	0	0.7	14	6.2	0	0.0
4	5	21.4	0	0.8	0	11.0	0	0.0
5	4	12.2	0	0.4	11	5.8	0	0.3
6	28	47.8	7	4.6	55	14.2	0	0.1
7. 1	34	88.2	7	6.8	7	15.8	0	0.2
2	182	56.8	69	4.8	85	15.7	0	0.0
3	67	146.9	19	20.0	49	13.6	0	0.4
4	285	110.2	132	15.8	40	9.4	0	0.1
5	197	167.7	126	17.8	85	7.5	0	2.7
6	233	135.9	165	41.0	55	10.9	0	0.7
8. 1	183	154.1	211	34.8	63	6.6	0	0.9
2	152	119.0	161	36.6	34	16.7	0	0.5
3	15	75.0	36	42.0	11	20.6	0	0.4
4	58	65.1	26	12.0	6	13.6	0	0.0
5	0	58.8	39	17.8	22	6.0	0	0.0
6	0	69.9	0	16.8	0	6.2	0	0.0
9. 1	2	46.7	0	6.4	0	3.2	0	0.0
2	0	31.3	0	4.1	0	3.4	0	0.0
3	0	48.0	0	4.6	0	6.8	0	0.0
4	0	25.4	0	1.2	0	3.5	0	0.0
5	0	3.6	0	1.4	0	5.9	0	0.0
6	0	9.8	0	0.1	0	1.0	0	0.0
10. 1	0	11.7	0	0.0	0	4.0	0	0.0
2	0	0.0	0	1.2	0	10.8	0	0.0
3	0	0.0	0	0.6	0	2.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	3	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	2.8	0	6.2	0	0.0
6	0	0.0	0	0.3	0	0.0	0	0.0
合計	1529	1580.2	1001	299.0	595	235.1	0	6.5

5）チャノコカクモンハマキ
（1）予察灯・フェロモントラップによる成虫の誘殺状況
ナシのチャノコカクモンハマキの項に掲載

6）チャハマキ
（1）予察灯・フェロモントラップによる成虫の誘殺状況
ナシのチャハマキの項に掲載

7）カキクダアザミウマ
（1）粘着トラップによる誘殺状況
○県予察圃場（出雲市芦渡町）
①越冬成虫の誘殺状況

月　日	誘殺数	月　日	誘殺数	月　日	誘殺数
4.11	0	4.21	0	5. 1	0
12	0	22	0	2	0
13	0	23	0	3	0
14	0	24	0	4	0
15	0	25	0	5	0
16	0	26	0	6	0
17	0	27	0	7	0
18	0	28	0	8	0
19	0	29	0	9	0
20	0	30	0	10	0
				合　計	0

②第１世代成虫の誘殺状況

月．半旬	本年	平年	月.半旬	本年	平年	月.半旬	本年	平年
6. 1	0	0.8	7. 1	0	1.1	8. 1	0	0.0
2	2	0.4	2	1	0.2	2	0	0.0
3	2	0.8	3	0	0.0	3	0	0.2
4	0	0.6	4	0	0.0	4	0	0.2
5	1	0.2	5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	1.1	6	0	0.0	6	0	0.0
						合　計	6	5.3

8）フジコナカイガラムシ

（1）フェロモントラップによる誘殺状況（一般圃場：出雲市東福町）

月．半旬	誘殺数	月.半旬	誘殺数	月.半旬	誘殺数
3．1	－	6．1	2	9．1	40
2	－	2	1	2	59
3	－	3	1	3	65
4	－	4	0	4	47
5	－	5	6	5	71
6	－	6	0	6	21
4．1	－	7．1	0	10．1	3
2	－	2	13	2	0
3	－	3	20	3	0
4	－	4	73	4	0
5	0	5	17	5	0
6	0	6	0	6	0
5．1	0	8．1	0	11．1	0
2	44	2	4	2	0
3	18	3	0	3	0
4	5	4	1	4	0
5	4	5	126	5	0
6	2	6	32	6	－

（2）果実の被害状況

○一般圃場（平田市）

調査		ｶﾒﾑｼ		ｶｷｸﾀﾞｱｻﾞﾐｳﾏ		ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ		ﾊﾏｷﾑｼ	
月日	調査数	被害果数	被害果率(%)	被害梢数 ＊	被害梢率(%)	被害果数	被害果率(%)	被害果数	被害果率(%)
4.23	―	―	―	0	0.0	0	0	―	―
5.12	―	―	―	1	0.2	0	0	0	0
5.28	500	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0
6.23	500	0	0.0	0	0	12	2.4	3	0.6
7.30	500	0	0.0	0	0	28	5.6	7	1.4
8.27	500	21	4.2	0	0	28	5.6	28	5.6
9.25	500	44	8.8	0	0	27	5.4	44	8.8
10.29	400	41	8.2	0	0	21	4.2	45	9.0

注）＊：各園100新梢、計500新梢調査

（3）定点における調査

①収穫果実の被害調査

○一般圃場（平田市）

調査	調査	ｶﾒﾑｼ		ｶｷｸﾀﾞｱｻﾞﾐｳﾏ		ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ		ﾊﾏｷﾑｼ	
月日	果数	被害果数	被害果率(%)	被害果数	被害果率(%)	被害果数	被害果率(%)	被害果数	被害果率(%)
11.17	1215	71	5.8	0	0.0	46	3.8	119	9.8
11.21	1314	42	3.1	0	0.0	32	2.4	101	7.7

（Ⅲ）クリ

１．病害虫に関する調査結果

１）モモノゴマダラノメイガ

（１）予察灯による成虫の誘殺状況

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

月．半旬	本　年	平　年	月．半旬	本　年	平　年
５．１	0	0.0	８．１	0	0.2
2	0	0.0	2	0	0.3
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.2
5	0	0.0	5	0	0.3
6	0	0.0	6	0	0.0
６．１	0	0.1	９．１	0	0.1
2	0	0.7	2	0	0.0
3	0	0.6	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.1	6	0	0.1
７．１	0	0.0	１０．１	0	0.0
2	0	0.2	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.6	6	0	0.0
			合　計	0	3.5

２）クスサン

（１）予察灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

月．半旬	本 年	平 年	月．半旬	本 年	平 年	月．半旬	本 年	平 年
８．１	0	0.0	９．１	0	0.3	１０．１	14	7.8
2	0	0.0	2	0	2.2	2	11	5.5
3	0	0.0	3	0	2.1	3	6	1.7
4	0	0.0	4	0	3.4	4	0	0.3
5	0	0.2	5	2	6.6	5	0	0.0
6	0	0.0	6	7	6.4	6	0	0.0
						合　計	40	36.5

Ⅲ）野菜

（Ⅰ）キャベツ

１．病害虫に関する調査結果

１）黒腐病

（１）発病状況調査

①巡回による調査

○調査場所：斐川町

調査月日	作型	調査圃場数	黒腐病		
			発生圃場率(%)	発病株率(%)	発病度
’14. 9.19	夏秋	15	0	0	0
	冬	13	0	0	0
10.31	夏秋	5	20	2.4	1.2
	冬	13	0	0	0

注）調査株数：50株/圃場。

２）菌核病、軟腐病、根こぶ病、株腐病

（１）発病状況調査

①巡回による調査

○調査場所：斐川町

調査月日	作型	調査圃場数	菌核病		軟腐病		根こぶ病		株腐病	
			発生圃場率	発病株率	発生圃場率	発病株率	発生圃場率	発病株率	発生圃場率	発病株率
’14. 9.19	夏秋	15	6.6 %	0.1 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %
	冬	13	0	0	0	0	0	0	0	0
10.31	夏秋	5	20	0.8	0	0	0	0	0	0
	冬	13	0	0	0	0	0	0	0	0

注）調査株数：50株/圃場。

３）モンシロチョウ

（１）発生状況調査

①巡回による調査

ア．夏秋キャベツ

○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
2014.8.28	11	18.2	0.9	0.1
9.16	12	16.7	1.6	0.2
9.26	10	10.0	1.0	0.1
10.30	11	0	0	0

注）調査株数：20株/圃場。

４）コナガ

（１）発生状況調査

モンシロチョウと同時に調査を行った。

①巡回による調査

ア．夏秋キャベツ

○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
2014.8.28	11	27.3	4.1	0.4
9.16	12	16.7	0.8	0.1
9.26	10	30.0	2.0	0.2
10.30	11	20.0	1.0	0.1

注）調査株数：20株/圃場。

5）ヨトウガ
（1）発生状況調査
モンシロチョウと同時に調査を行った。
①巡回による調査
ア．夏秋キャベツ
○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	幼虫寄生株率(%)
2014.8.28	11	0	0
9.16	12	0	0
9.26	10	0	0
10.30	11	0	0

注）調査株数：20株/圃場。

6）ウワバ類
（1）発生状況調査
モンシロチョウと同時に調査を行った。
①巡回による調査
ア．夏秋キャベツ
○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数			
				卵	幼虫	蛹	計
2014.8.28	11	9.1	0.9	0.1	0	0	0.1
9.16	12	0	0	0	0	0	0
9.26	10	10.0	0.5	0	0.1	0	0.1
10.30	11	10.0	0.5	0	0.1	0	0.1

注）調査株数：20株/圃場。

7）アブラムシ類
（1）黄色水盤による有翅虫の有殺状況
①半旬別誘殺数
イチゴのアブラムシ類の項参照。
（2）発生状況調査
モンシロチョウと同時に調査を行った。
②①巡回による調査
ア．夏秋キャベツ
○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
2014.8.28	11	63.6	4.1
9.16	12	100	30.0
9.26	10	100	55.0
10.30	11	10.0	3.0

注）調査株数：20株/圃場。

8）ハスモンヨトウ
（1）フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況
①半旬別誘殺数
○設置場所：出雲市芦渡町

月．半旬	本 年	*平 年	月．半旬	本 年	*平 年	月．半旬	本 年	*平 年
4．1	0	0.3	6．3	12	10.9	8．5	39	76.4
2	0	0.1	4	29	17.1	6	72	69.6
3	1	0.2	5	11	37.4	9．1	25	114.4
4	1	0.3	6	1	43.6	2	6	211.1
5	0	0.7	7．1	2	107.1	3	4	150.0
6	0	1.1	2	8	82.4	4	1	111.1
5．1	0	1.1	3	47	61.3	5	6	82.5
2	1	2.8	4	124	38.1	6	8	47.9
3	0	7.0	5	41	35.5	１０．1	14	49.1
4	3	5.3	6	11	45.8	2	9	45.5
5	6	5.5	8．1	26	43.4	3	5	52.7
6	3	7.3	2	14	41.9	4	5	42.2
6．1	0	11.4	3	9	56.1	5	3	51.2
2	5	9.7	4	26	63.2	6	8	50.5
						総 計	586	1890.8

注）農技センター屋上設置。＊：平成16年～平成25年の平均値

○設置場所：益田市飯田町

月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年
５．１	0	1.8	７．１	8	63.5	９．１	41	157.5
２	0	4.56	２	13	81.4	２	30	226.9
３	0	6.7	３	25	46.9	３	16	152.3
４	5	9.1	４	34	42.8	４	14	213.9
５	10	21.2	５	18	43.2	５	35	191.8
６	7	28.0	６	60	67.4	６	73	225.9
６．１	11	26.1	８．１	28	60.8	１０．１	137	177.0
２	7	11.3	２	41	39.8	２	109	137.7
３	14	16.1	３	7	82.6	３	37	107.8
４	6	20.2	４	12	136.4	４	19	107.5
５	7	32.2	５	39	161.7	５	63	138.4
６	3	54.4	６	48	195.5	６	57	270.5
注）＊：平成16年～平成25年の平均値						総　計	1034	3360.9

（２）発生状況調査

①巡回による調査

モンシロチョウと同時に調査を行った。

ア．夏秋キャベツ

○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
2014.8.28	11	0	0
9.16	12	16.7	0.8
9.26	10	10.0	0.5
10.30	11	0	0

注）調査株数：20株/圃場。

9）シロイチモジヨトウ

（１）フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺数

○設置場所：出雲市芦渡町

月．半旬	本 年	*平 年	月．半旬	本 年	*平 年	月．半旬	本 年	*平 年
４．１	0	0.1	６．３	0	0.4	８．５	0	3.7
２	0	0.0	４	0	0.2	６	0	3.4
３	0	0.0	５	0	0.8	９．１	0	4.9
４	0	0.0	６	0	0.2	２	0	3.5
５	0	0.0	７．１	0	1.0	３	0	1.9
６	0	0.0	２	0	0.1	４	2	3.9
５．１	0	0.0	３	0	0.1	５	0	2.3
２	0	0.4	４	4	0.3	６	0	0.6
３	0	0.2	５	1	0.6	１０．１	3	0.4
４	0	0.2	６	3	4.8	２	0	0.3
５	0	0.7	８．１	0	1.8	３	0	0.5
６	0	0.4	２	1	2.5	４	0	0.0
６．１	0	0.4	３	0	4.7	５	0	0.0
２	0	0.4	４	0	4.0	６	0	0.3
注）農技センター屋上設置。＊：平成16年～平成25年の平均値						総　計	14	50.1

○設置場所：益田市飯田町

月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年
５．１	0	0.0	７．１	2	2.3	９．１	3	10.2
２	0	0.0	２	0	1.7	２	15	7.8
３	0	0.2	３	5	2.9	３	11	10.2
４	0	0.1	４	4	1.7	４	6	9.1
５	0	0.6	５	0	2.5	５	5	9.9
６	0	0.6	６	7	4.0	６	8	12.5
６．１	1	0.4	８．１	9	9.7	１０．１	32	3.5
２	2	0.5	２	3	5.0	２	9	1.3
３	1	0.7	３	5	8.0	３	1	0.6
４	2	0.5	４	0	15.7	４	0	1.4
５	0	2.4	５	3	18.3	５	0	1.2
６	3	1.9	６	4	18.1	６	0	1.1
注）＊：平成16年～平成25年の平均値						総　計	141	166.6

（２）発生状況調査
①巡回による調査
モンシロチョウと同時に調査を行った。
ア．夏秋キャベツ
○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
2014.8.28	11	0	0
9.16	12	0	0
9.26	10	0	0
10.30	11	0	0

注）調査株数：20株/圃場。

１０）オオタバコガ

（１）フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況
①半旬別誘殺数
○設置場所：出雲市芦渡町

月．半旬	本 年	*平 年	月．半旬	本 年	*平 年	月．半旬	本 年	*平 年
４．１	0	0.0	６．３	0	0.0	８．５	0	0.1
２	0	0.0	４	0	0.4	６	0	0.1
３	0	0.0	５	0	0.0	９．１	0	0.0
４	0	0.0	６	0	0.0	２	0	1.3
５	0	0.0	７．１	0	0.0	３	0	0.3
６	0	0.0	２	0	0.1	４	0	1.1
５．１	0	0.0	３	0	0.1	５	0	0.6
２	0	0.0	４	0	0.1	６	0	0.1
３	0	0.2	５	0	0.1	１０．１	0	0.0
４	0	0.0	６	0	3.9	２	0	1.4
５	0	0.0	８．１	0	0.1	３	0	0.2
６	0	0.0	２	0	0.0	４	0	0.5
６．１	0	0.1	３	0	0.0	５	0	1.0
２	0	0.0	４	0	0.1	６	0	0.9
						総 計	0	12.8

注）農技センター屋上設置。＊：平成16年～平成25年の平均値

○設置場所：益田市飯田町

月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年
５．１	0	0.3	７．１	0	0.2	９．１	0	0.4
２	0	0.2	２	0	0.3	２	0	0.1
３	0	0.5	３	0	0.2	３	0	0.0
４	0	0.5	４	0	0.0	４	0	0.2
５	0	0.0	５	0	0.1	５	0	0.7
６	0	0.1	６	0	0.4	６	0	0.8
６．１	0	0.1	８．１	0	0.2	１０．１	3	0.4
２	0	0.0	２	0	0.1	２	0	0.7
３	0	0.0	３	0	0.1	３	0	0.4
４	0	0.0	４	0	0.2	４	0	1.6
５	0	0.0	５	0	0.1	５	0	0.7
６	0	0.6	６	0	0.2	６	0	3.3
						総 計	3	13.7

注）＊：平成16年～平成25年の平均値

（２）発生状況調査
モンシロチョウと同時に調査を行った。
①巡回による調査
ア．夏秋キャベツ
○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
2014.8.28	11	0	0
9.16	12	0	0
9.26	10	10.0	0.5
10.30	11	0	0

注）調査株数：20株/圃場。

11）キスジノミハムシ
（１）発生状況調査
モンシロチョウと同時に調査を行った。
①巡回による調査
ア．夏秋キャベツ
○松江・斐川地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り成虫数
2014.8.28	11	54.5	12.7	1.5
9.16	12	58.3	8.3	2.2
9.26	10	60.0	16.5	3.9
10.30	11	40.0	3.5	0.6

注）調査株数：20株/圃場。

（Ⅱ）タマネギ
１．病害虫に関する調査結果
１）べと病
（１）発生状況調査
①巡回による調査

調査月日	調査場所	調査圃場数	発生圃場率(%)	調査株数	発病株率(%)
’14. 3.25	斐川町	30	20.0	675,600	0.009
4.30	斐川町	30	20.0	9,000	0.67
5.28	斐川町	27	63.0	8,100	9.84

２）白色疫病、ボトリチス属菌による葉枯症、腐敗病・軟腐病、さび病
（１）発生状況調査
①巡回による調査

調査月日	調査場所	調査圃場数	白色疫病		ﾎﾞﾄﾘﾁｽ属菌による葉枯症		腐敗病･軟腐病	
			発生圃場率(%)	発病株率(%)	発生圃場率(%)	発病株率(%)	発生圃場率(%)	発病株率(%)
’14. 3.25	斐川町	30	10.0	0.1	0.0	0.0	6.7	0.2
4.30	斐川町	30	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.2
5.28	斐川町	27	0.0	0.0	11.1	0.1	25.9	2.6

注）調査株数：300株/圃場。さび病の発生はみられなかった。

（Ⅲ）イチゴ
１．病害虫に関する調査結果
１）灰色かび病
（１）発病状況調査
①巡回による調査

調査年月日	調査場所	調査圃場数	発生圃場率(%)	発病株率(%)	調査葉数	発病葉率(%)	調査花梗数	発病花梗率(%)	調査果実数	発病果率(%)
’14.3.24	安来市・出雲市	8	62.5	19.5	3025	1.4	3170	0.03	1640	0.1
4.23	安来市・出雲市	7	75.0	28.0	3370	1.4	1550	1.2	1055	0

注）１圃場当たり25株調査

2）アブラムシ類

（1）黄色水盤による有翅虫の誘殺状況

①半旬別誘殺数

月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年	月．半旬	本年	*平年
4．1	0	0.2	7．1	27	80.2	10．1	26	51.3
2	0	1.9	2	26	69.1	2	11	43.8
3	0	2.2	3	24	41.0	3	22	26.2
4	4	4.1	4	9	18.2	4	16	14.1
5	5	7.3	5	9	11.0	5	20	38.7
6	1	22.9	6	5	17.7	6	10	59.0
5．1	6	31.3	8．1	4	20.8			
2	19	26.7	2	13	15.9	総　計	580	1736.8
3	21	30.9	3	3	14.3			
4	14	59.4	4	6	14.9			
5	40	59.2	5	5	13.3			
6	26	74.7	6	3	22.4			
6．1	21	57.7	9．1	8	20.1			
2	39	101.9	2	8	22.8			
3	21	86.0	3	2	29.3			
4	33	101.5	4	5	87.4			
5	8	134.2	5	13	52.3			
6	15	111.1	6	32	39.8			

注）１黄色水盤：径20㎝、深さ18㎝、ライシメータ上に設置。
　　２調　　査：平成26年4月から10月に1～6日おきに飛び込み有翅虫数を調査した。
　　３　＊　　：平成16年から平成25年までの平均値。

（2）発生状況調査

①巡回による調査

○安来地区

調査年月日	調査圃場数	ワタアブラムシ		ﾁｭｰﾘｯﾌﾟﾋｹﾞﾅｶﾞｱﾌﾞﾗﾑｼ	
		発生圃場率(%)	寄生株率(%)	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
2014.3.24	9	33.3	3.3	0	0
4.23	9	22.2	2.2	0	0

注）調査株数：3月24日20株(1株3複葉)/圃場、4月23日10株(1株3複葉)/圃場。

3）ハダニ類

（1）発生状況調査

①巡回による調査

○安来地区

調査年月日	調査圃場数	カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率(%)	寄生葉率(%)	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
2014.3.24	9	0	0	55.6	32.8
4.23	9	0	0	66.7	42.2

注）調査株数：3月24日20株(1株3複葉)/圃場、4月23日10株(1株3複葉)/圃場。

Ⅳ）花卉

（1）キク

1．病害虫に関する調査結果

1）アブラムシ類

（1）黄色水盤による有翅虫の有殺状況

①半旬別誘殺数

イチゴのアブラムシ類の項参照。

V）病害虫発生程度別面積　(2014・H26)

農作物名	作付面積(ha)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					防除面積(ha)		備考
			甚	多	中	少	計	実	延	
普通期水稲	18,600	苗立枯病	0	0	10	50	60	14,500	14,700	
		苗いもち	0	0	0	10	10			
		葉いもち	5	60	500	2,000	2,565	13,160	17,500	
		穂いもち	15	30	250	3,500	3,795	9,500	12,000	
		紋枯病	30	230	1,200	7,000	8,460	7,000	9,000	
		白葉枯病	0	0	0	20	20	0	0	
		ばか苗病	0	1	4	100	105	14,300	14,300	
		もみ枯細菌病	0	0	0	10	10	125	125	
		もみ枯細菌病（種子消毒）					-	-14,300	-14,300	
		ごま葉枯病	2	18	200	4,000	4,220	-5,000	-5,000	
		黄化萎縮病	0	0	0	5	5	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	20	20	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	
		ニカメイガI	0	0	0	2,800	2,800	-11,800	-11,800	
		ニカメイガII	0	0	0	1,200	1,200	-10,100	-10,100	
		セジロウンカ	0	0	0	17,520	17,520	-10,100	-10,100	
		トビイロウンカ	0	0	0	14,100	14,100	10,100	10,100	
		ヒメトビウンカ	0	0	0	10,530	10,530	-11,800	-11,800	
		ツマグロヨコバイ	0	0	2,440	9,960	12,400	-10,100	-10,100	
		イネミギワバエ	0	0	90	1,000	1,090	-11,800	-11,800	
		イネドロオイムシ	0	0	0	60	60	-11,800	-11,800	
		イネゾウムシ	0	0	0	600	600	-11,800	-11,800	
		イネクロカメムシ	20	30	50	80	180	130	170	
		斑点米カメムシ類	0	0	0	16,640	16,640	10,300	10,300	
		イチモンジセセリ	0	0	0	200	200	10	10	
		フタオビコヤガ	0	0	0	1,000	1,000	200	200	
		イネヨトウ	0	0	0	50	50	0	0	
		アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	
		コブノメイガ	0	0	0	0	0	0	0	
		イネミズゾウムシ	0	0	0	9,020	9,020	11,800	11,800	
麦	595	さび病類	0	0	0	1	1	0	0	
		うどんこ病	0	0	0	0	0	-500	-500	
		赤かび病	0	0	0	5	5	550	1,100	
		黒穂病類	0	0	0	0	0	0	0	
		黒節病	0	0	0	5	5	0	0	
		大麦縞萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	
		斑葉病	0	0	0	1	1	0	0	

農作物名	作付面積(ha)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					防除面積(ha)		備考
			甚	多	中	少	計	実	延	
大豆	969	アブラムシ類	0	0	10	90	100	300	350	
		ハスモンヨトウ	0	2	20	150	172	300	450	
		吸実性カメムシ類	1	10	90	400	501	400	500	
なし	80	黒斑病	3	8	11	25	47	45	585	
		黒星病	0	0	4	32	36	80	637	
		ナシヒメシンクイ	0	0	8	12	20	80	160	
		モモシンクイガ	0	0	0	11	11	80	160	
		ハマキムシ類	0	0	3	8	11	80	160	
		ハダニ類	0	20	20	30	70	80	240	
		カメムシ類	0	0	15	30	45	80	160	
		カイガラムシ類	0	0	0	10	10	80	80	
		アブラムシ類	0	5	20	30	55	80	80	
		ニセナシサビダニ	10	20	30	30	90	80	240	
かき	402	炭そ病	0	0	4	22	26	350	2,100	
		うどんこ病	4	7	11	54	76	350	1,050	
		落葉病類	0	0	23	55	78	350	1,050	
		カキノヘタムシガ(カキミ	0	0	20	20	40	400	800	
		カイガラムシ類	10	45	75	150	280	400	1,200	
		カメムシ類	0	50	100	150	300	400	1,600	
		ハマキムシ類	0	10	10	30	50	400	800	
		チャノキイロアザミウマ	0	0	5	10	15	400	800	
		カキクダアザミウマ	0	0	0	50	50	400	800	
夏秋キャベツ	56	黒腐病	0	0	1	7	8	28	56	
		菌核病	0	0	1	6	7	28	35	
		モンシロチョウ	0	1	2	7	10	50	200	
		コナガ	0	1	4	30	35	50	200	
		ハスモンヨトウ	0	0	1	10	11	50	200	
冬キャベツ	118	黒腐病	0	0	1	11	12	40	80	
		菌核病	0	3	6	15	24	60	120	
		モンシロチョウ	0	1	3	25	29	110	220	
		コナガ	0	1	5	37	43	110	220	
		ハスモンヨトウ	0	1	3	25	29	110	220	
タマネギ	112	白色疫病	0	0	5	18	23	76	250	
		べと病	2	9	14	32	57	95	600	
		ボトリチス属菌による葉枯	0	0	0	40	40			

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					防除面積(ha)		備考
			甚	多	中	少	計	実	延	
イチゴ	21	灰色かび病	0	0	2	6	8	20	60	
		アブラムシ類	0	1	2	8	11	18	36	
		ハダニ類	0	2	4	11	17	18	36	
きく	13	アブラムシ類	0	0	1	2	3	12	90	

Ⅵ）病害虫発生経過の概要及び発生原因の解析(2014・H26)

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
イネ	いもち病	葉いもち平年並、穂いもち平年並	葉いもち少、穂いもち少	葉いもちの初発生は６月18日と平年並みであった。７月下旬の巡回調査（70ほ場）における発生ほ場率は、4.3%（平年18.4%）、発病株率が0.3%（平年9.4%）であったが、発病程度の高いほ場もあった。穂いもちの初発は８月５日と平年並みであった。８月下旬の巡回調査（70ほ場）における発生圃場率は10.0%（平年15.5%）、発病穂率は0.1%（平年0.6%）であった。9月には、これまでに発生のほとんどなかったきぬむすめの一部ほ場でも発生がみられ、県下全般の発生量はほぼ平年並みであった。	アメダス観測15地点におけるBLASTAMによる６月の感染好適日の出現回数は36回（平年17.5回）と平年に比べて多かった。７月に入っても頻繁に出現し第４半旬までに58回あったが、梅雨明け後の第５～６半旬には全く出現しなかった。８月の出現回数も多く、56回（平年12.2回）であった。感染に好適な条件であったが、近年発生が少なく、６月上旬の置き苗の調査では発生を認めなかったこと、育苗箱施薬により葉いもちの発生が抑制されたこと、出穂前に感染好適日が出現しなかったことなどにより平年並みの発生になったものと考えられる。	常習発生地では育苗箱施薬が行われた。また、発生に応じ薬剤散布が行われた。
	紋枯病	平年並	やや多い	初発生は平年並みの６月16日に認められた。初期の病勢進展はやや緩慢であったが、その後の病勢は活発で出穂後にも発生が増加し、発病株では上位進展し発病程度は高かった。	7月後半は降雨頻度が低かったが、８月～９月第１半旬には降雨頻度が高く、発病を助長したものと考えられる。	育苗箱施薬や発生に応じて出穂期までに薬剤散布が行われた。
	縞葉枯病	－	平年並	初発生は６月25日に認められた。その後、ゆうれい症状を呈する発病株が認められた。巡回調査（70ほ場）における発生圃場率は0%、再生稲における発病株率も0.0%とほぼ平年並みの発生であった。	ヒメトビウンカの越冬世代～第１世代の発生量は平年並みで、保毒虫率も低いと考えられることから、本病の発生量は平年並みになったものと考えられる。	これまでに、縞葉枯病が多発生した地域では、箱施薬剤等による媒介虫のヒメトビウンカに対する防除が行われた。
	セジロウンカ	遅い	やや少ない	予察灯での初飛来は平年に比べて遅い７月13日に認められ、その後の飛量来は平年に比べて少なく経過した。現地ほ場の成幼虫の発生は7月下旬に25株当り虫数が7.3頭（平年35.3頭）、発生ほ場率が89.5%（77.9%）となり、全般の発生量は平年と比べてやや少ない。	飛来時期が遅く、その後の飛来量が少なかったこと、７月の気温は平年並みに推移したが８月に入ってから曇天が続き気温が低く降水量は平年より多くなったことから、全般の発生量は平年と比べてやや少なくなったと考えられる。	大部分の圃場では育苗箱施薬が行われており、長期残効型箱剤の施用面積も拡大している。また、出穂時に穂いもち・ウンカ類の同時防除が行われた。
	トビイロウンカ	早い	平年並	予察灯での初飛来は平年に比べて7日早い7月15日に認められ、その後の飛来は少ないながらもほぼ平年並みで経過した。ほ場での成幼虫の発生は7月下旬は25株当り虫数が0.4頭（平年0.06頭）、発生ほ場率が21.1%(4.3%）と平年に比べてやや多かった。８月下旬には25株当り虫数が1.2頭(平年1.9頭)、発生ほ場率が40.0%(29.7%）となり、全般の発生量はほぼ平年並みであった。	飛来時期は早かったものの、その後の飛来量が少なくほぼ平年並みであったこと、７月の気温は平年並みに推移したが８月に入ってから曇天が続き気温が低く降水量は平年より多くなったことから、全般の発生量は平年並みになったと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われており、長期残効型箱剤の施用面積も拡大している。また、出穂時に穂いもち・ウンカ類の同時防除が、収穫時期の遅いほ場では発生に応じて追加防除が行われた。
	斑点米カメムシ類	平年並	平年並	６月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で発生量は13.6頭/20回振、（平年6.21頭）で発生量は平年に比べて多かった。７月下旬の極早生品種出穂時の調査では、発生量は9.0頭/20回振（平年6.4頭）・ほ場率80.8%（74.4% ）で平年に比べてやや多かった。全般の発生量はほぼ平年並みで推移した。主な発生種はアカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ､ホソハリカメムシであった。	７月の気温は平年並みに推移したが８月に入ってから曇天が続き気温が低く降水量は平年より多くなったことや、7月24日に斑点米カメムシ注意報を発令したことで防除が徹底されたことから、全般の発生量は平年並みに抑えられたと考えられる。	7月24日に斑点米カメムシの注意報を発令し注意を促した。発生に応じて穂揃い・乳熟期～糊熟期に薬剤散布が行われた。カメムシ防除を狙った長期残効型箱剤の施用面積も拡大している。

ムギ	さび病	－	少ない	収穫期になってコムギ赤さび病の発生をごくわずかに認めた。これ以外の発生は確認できなかった。	近年発生が少ないことから、伝染源量が少ないものと考えられる。	本病を対象とした防除は特に行われなかった。
	赤かび病	－	コムギやや多いオオムギ少ない	５月下旬における発生量は発生圃場率が11.7％（平年3.1％）、発病穂率は0.18％（平年0.08％）で、平年に比べてオオムギは少なく、コムギはやや多かった。	コムギの出穂期前後に感染に好適な降雨があり発生を助長したものと考えられる。	ムギの種類に応じて出穂期以降、薬剤散布が実施された。
	うどんこ病	－	少ない	オオムギ、コムギとも巡回調査では発生を確認できなかった。	近年発生が少ないことから、伝染源量が少ないものと考えられる。	他の病害との同時防除が行われた。
ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	少ない	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数は９月下旬まで少なかった。圃場での幼虫の発生は平年並みの８月下旬からみられた。９月末の発生量は少なかった。	成虫の飛来量が少なかったため、幼虫の発生量が少なくなったものと思われる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
ナシ	黒斑病	平年並	平年並	発生量は５月下旬はやや少なかったが、６月下旬以降は平年並みで推移した。	昨年の発生量が多く伝染源は多かったと考えられるが、５月中旬～８月下旬までの降水量が少なく推移したために平年並みになったと考えられる。	袋がけ時期を中心に薬剤散布がよく行われた。以後、収穫期まで薬剤散布が行われた。
	黒星病	平年並	平年並	全般の発生量は平年並みであった。	４月～袋かけまでの降水量が平年並みであったことや、適期防除が行われたため、発生量が平年並みになったと考えられる。	開花期から袋かけ期を中心に薬剤防除が行われた。
	ナシヒメシンクイ	平年並	平年並	フェロモントラップでの越冬世代、第１世代雄成虫の誘殺時期は平年並み。誘殺数はすべての世代で平年並みとなった。果実の被害は全般には平年並みであった。	３月中下旬は気温が高かったが、４月中旬以降は気温が低く、越冬世代成虫の発生時期は平年並みとなった。越冬量はやや少なく、６月上旬の気温は高く推移したため発生量は平年並みになった。その後、７月中旬以降は気温が低く推移し、増加傾向はみられず最終的な発生量は平年並みとなった思われる。また、本県ではほとんどが有袋栽培のため果実の被害は平年並みとなったと考えられる。	小袋掛け前に他害虫との同時防除が行われた。
	モモシンクイガ	平年並	平年並	フェロモントラップでの越冬世代、第１世代雄成虫の誘殺時期は平年並みであった。誘殺数、果実被害は全般に平年並みであった。	前年の発生は平年並みで、越冬世代成虫の発生量も平年並みと考えられる。春先の気温が高く推移したが、その後低くなったため発生時期は平年並みとなった。また、本県ではほとんどが有袋栽培のため果実の被害は平年並みとなったと考えられる。	ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類との同時防除が行われた。
	ハマキムシ類	平年並	やや少ない	フェロモントラップでのチャハマキ、チャノコカクモンハマキ越冬世代の発生時期は、平年並みであった。チャハマキ、チャノコカクモンハマキの発生量はやや少なく、幼虫による被害もやや少なかった。	３月は気温が高かったものの４月の気温はやや低く、越冬世代の発生時期は平年並みとなった。その後、発生量は平年並みに推移したが、７月中旬以降は気温が低く、全体の発生量はやや少なくなったと考えられる	他害虫との同時防除が行われた。

	ハダニ類	平年並	平年並	４月下旬の発生量は花叢への寄生率はやや少なかったが、その後、６月から８月に発生が平年並みとなった。全般の発生量は平年並みであった。	カンザワハダニの越冬量はやや少なく、４月下旬にクワオオハダニの花叢への寄生がみられたが、やや少なかった。その後、５月の気温が高く、発生量が一時増加したが、７月中旬以降気温が低く推移し、降雨も多かったため、発生量は平年並みで推移したと考えられる。	５月下旬～６月、７月上旬、８月上中旬を中心に薬剤散布が行われた。
	クワコナカイガラムシ	－	やや少ない	全般の発生量はやや少なかった。	－	防虫果袋が使用された。
	アブラムシ類	やや遅い	平年並	５月上旬の発生量は新梢への寄生程度はやや低かったが、その後、６月下旬には平年並みとなった。全般の発生量は平年並みであった。	４月の気温がやや低く経過し、その後、５月には気温が高く推移したが、発生時期はやや遅くなった。そのため、防除時期がずれ６月下旬の発生量は平年並みとなった。その後、降雨も多く、７月中旬以降は気温が低く推移し、発生は平年並みとなった。全体の発生量も平年並みに推移したものと考えられる。	５～６月に薬剤散布が行われた。
カキ	炭疽病	やや遅い	平年並	全般の発生量は平年並みであった。	9月に降雨が続いたが、炭疽病を主体とした防除体系が行われたため、発生量が平年並みとなったと考えられる。	梅雨時期と8月下旬～9月を中心に薬剤散布が行われた。
	うどんこ病	やや遅い	平年並	全般の発生量は平年並みであった。	8月末のうどんこ病を対象とした防除によって、その後の発生が抑えられたと考えられる。	8月下旬～9月に薬剤散布が行われた。
	円星落葉病	平年並	平年並	一部多発園も見られたが、全般の発生量は平年並みであった。	近年、発生量が少ない傾向が続いているため、越冬菌量が少なかったことと、薬剤防除が徹底されたためと考えられる。	5月～7月に薬剤散布が行われた。
	カキミガ	平年並	平年並	果実における発生量、被害とも平年並みであった。	防除効果の高い薬剤が適期に散布されたためと考えられる。	各世代発生期に薬剤散布が行われた。
	カメムシ類	やや早い	やや多い	フェロモントラップでは４月16日に、予察灯では５月14日から誘殺された。その後、7月に誘殺数は多くなり、8月下旬には少なくなった。７月下旬に被害が発生した。	昨年はヒノキ毬果が多くカメムシの越冬量は多いと考えられた。本年はヒノキの花粉飛散量から毬果はやや少ないと考えられ、圃場への飛来時期は早く、飛来量は多くなったと考えられる。７月上旬から定期的に防除を行ったため被害は平年並みとなった。	注意報を発表し、７月上旬から定期的に薬剤散布を行った。
	カキクダアザミウマ	平年並	平年並	５月12日に被害捲葉の発生を認めた。発生量は平年並みであった。第１世代成虫は６月第４半旬から粘着トラップに誘殺され、誘殺数は平年並みであった。果実被害は７月中旬からみられたが、被害量は平年並みであった。	越冬成虫の飛来量が平年並みであったこと、成虫飛来時期の薬剤散布と被害捲葉の除去などの防除対策により、果実被害の発生量は平年並みとなったと考えられる。	越冬成虫飛来期の薬剤散布と捲葉の切除が行われた。

夏秋キャベツ	黒腐病	平年並	やや少ない	巡回調査地点での発生量は生育期間全般を通じてやや少なかった。	食葉性害虫等による葉の傷害も少なく、感染機会は総じて限定的であったものと推察された。また、近年の傾向として発生量がやや少ないことから、伝染源量の減少も発生の抑制に繋がっているものと考えられる。	薬剤による防除が行われた。
	菌核病	平年並	平年並	全般の発生量は平年並であった。	－	薬剤による防除が行われた。
	コナガ	－	平年並	幼虫の発生量は全般に平年並みであった。	－	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫との同時防除が行われた。
	ハスモンヨトウ	やや遅い	少ない	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数は９月下旬まで少なく、10月に入ってやや増加したが、全般の誘殺数は少なかった。圃場での幼虫の発生はやや遅い９月中旬からみられた。９月末には寄生株率が0.5%（平年7.3%）となった。全般の発生量は少なかった。	成虫の飛来量が少なかったため、幼虫の発生量が少なくなったものと思われる。	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫との同時防除が行われた。
冬キャベツ	黒腐病	平年並	やや少ない	発生圃場は僅かで、発病程度もやや低く、全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	－	薬剤による防除が行われた。
	菌核病	平年並	やや少ない	県内各地で発生がみられたが、発病程度はやや低く、全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	－	薬剤による防除が行われた。
	コナガ	－	平年並	幼虫の発生量は全般に平年並であった。	－	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫との同時防除が行われた。
	ハスモンヨトウ	やや遅い	少ない	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数は９月下旬まで少なく、10月に入りやや増加したものの、全般の誘殺数は少なかった。圃場での幼虫の発生は９月中旬からみられ、９月下旬には寄生株率が0.5%（平年7.3%）となった。全般の発生量は少なかった。	成虫の飛来量が少なかったため、幼虫の発生量が少なくなったものと思われる。	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫との同時防除が行われた。
タマネギ	白色疫病	平年並	少ない	３月には県内各地で発生がみられたが、発病程度の低い圃場が多く、全般の発生量は平年に比べて少なかった。４月以降は、例年どおり気温の上昇に伴い病勢は鈍化し、４月下旬にはほぼ終息した。	－	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	べと病	平年並	やや多い	３月下旬における越年罹病株の発生量は0.9株/1万株と平年と比べて少なかった。その後、二次感染株の発生が県内各地で認められ、５月下旬における発生圃場率は63.0%、発病株率は9.8%と平年よりもやや多い発生となった。	３月末から４月初旬の降水量が多い傾向であったことが、二次感染株の発生を助長したと考えられる。	越年罹病株の抜き取りや発生に応じた薬剤散布が行われた。
	さび病	平年並	平年並	収穫期に発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	－	本病を対象とした薬剤散布は行われなかった。
イチゴ	灰色かび病	平年並	やや多い	県内各地で発生が認められ、発病程度の高い圃場も多く、全般の発生量は平年よりもやや多い発生となった。	３月初旬の気温が低く推移したため、換気が十分にできず、高湿度条件が長時間継続し、発生が助長されたものと考えられる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	アブラムシ類	－	平年並	促成、半促成栽培における発生量は全般に平年並みであった。	前年秋期のアブラムシ類有翅虫の飛来数はやや多かったが、効果の高い薬剤が使用されたため平年並みの発生になったものと考えられる。	定植時とその後は発生に応じて薬剤散布が行われた。

Ⅶ）情報の提供、諸報告に関する事項

１．情報の提供方法及び提供先

１）郵送（＊印は注意報のみ）

○国関係

＊農林水産省 消費･安全局植物防疫課、＊同中国四国農政局 消費･安全部 安全管理課植物防疫係、同松江地域センター浜田支所、気象庁松江地方気象台。

○独立行政法人

農業環境技術研究所インベントリーセンター、農業･食品産業技術総合研究機構 果樹研究所、同果樹研究所ブドウ･カキ研究拠点、同野菜茶業研究所、同近畿中国四国農業研究センター。

○他県関係

＊鳥取、＊岡山、＊広島、＊山口、＊徳島、＊香川、＊愛媛、＊高知、各県担当課。

○県内関係

農業技術センター、島根県立松江農林高等学校、同出雲農林高等学校、同邇摩高等学校、同矢上高等学校、同益田翔陽高等学校、同図書館、病害虫防除員(果樹)。

○県内団体

島根県農業協同組合中央会、農業振興協会。

○報道機関

朝日、山陰中央、サンケイ、島根日日、中国、毎日、読売 各新聞社出雲支局（出雲市役所記者室）、ＮＨＫ松江放送局、同出雲通信部、山陰放送、同ラジオ総局、山陰中央テレビ放送局、同出雲通信部、日本海テレビ、同出雲通信部。

２）ＦＡＸ

○県内関係

中山間地域研究センター、農林大学校。

○報道機関

日本農業新聞松江支局、同中国四国支所、出雲ケーブルテレビジョン、石見ケーブルテレビ。

３）メール

島根県農林水産部 農業経営課、同農畜産振興課、同食糧安全推進課東部、西部農林振興センター、各農業普及部（松江、浜田、安来、雲南、出雲、県央、大田、益田）、隠岐支庁農林局 農業振興グループ、同島前地域振興グループ、各市町村、全国農業協同組合連合会島根県本部、県内各農業共済組合、島根県農薬卸商協会、各病害虫防除員、ひとまろビジョン。

４）ホームページ

発生予察情報（発生予報、特殊報、注意報、臨時情報）。

２．発表状況

（１）発生予察情報の発表状況

種　類	発表回数	発表部数	対　象　病　害　虫
発生予報	８回	２００部	○イネ 葉いもち２回、穂いもち３回、紋枯病４回、白葉枯病３回、縞葉枯病２回、萎縮病１回、黄化萎縮病１回、ヒメトビウンカ４回、ニカメイチュウ５回、ツマグロヨコバイ４回、イネミズゾウムシ３回、セジロウンカ３回、トビイロウンカ４回、コブノメイガ３回、斑点米カメムシ類３回。 ○ムギ うどんこ病２回、赤かび病２回、さび病類２回。 ○ダイズ ハスモンヨトウ１回。 ○ナシ 黒斑病７回、黒星病４回、シンクイムシ類６回、ハマキムシ類３回、ハダニ類７回、アブラムシ類２回、カメムシ類２回。 ○カキ 円星落葉病１回、うどんこ病３回、灰色かび病１回、カキミガ３回、チャノキイロアザミウマ１回、カメムシ類３回、カキクダアザミウマ２回。

種　類	発表回数	発表部数	対　象　病　害　虫
			○果樹全般 　カメムシ類２回。 ○キャベツ 　黒腐病１回、菌核病１回。 ○アブラナ科野菜 　アブラムシ類１回、コナガ２回、アオムシ１回、ハスモンヨトウ２回。 ○タマネギ 　ボトリチス属菌による葉枯れ３回、べと病３回、腐敗病・軟腐病３回、白色疫病１回、さび病２回。 ○イチゴ 　灰色かび病２回、アブラムシ類２回、ハダニ類２回。
注 意 報	２ 回	２１０部	○水稲：斑点米カメムシ類　１回 ○果樹全般：カメムシ類　１回
特 殊 報	１ 回	２００部	○トルコギキョウ：えそ輪紋病　１回
技術資料	３ 回	２００部	○水稲：斑点米カメムシ類水　１回 ○エゴマ：青枯病　１回 ○稲：ＱｏＩ剤耐性イネいもち病菌　１回

３．発表内容

１）注意報

（１）第１号（平成２６年７月２４日）　水稲：斑点米カメムシ類
（２）第２号（平成２６年７月２４日）　果樹全般：カメムシ類

２）特殊報

（１）第１号（平成２６年１０月９日）　トルコギキョウ：えそ輪紋病

３）技術資料

（１）第１号（平成２６年８月１４日）　水稲：斑点米カメムシ類
（２）第２号（平成２６年１０月３１日）　エゴマ：青枯病
（３）第３号（平成２７年２月２５日）　ＱｏＩ剤耐性イネいもち病菌

平成２６年度　病害虫発生予察情報　注意報第１号

平成26年７月24日
島　　根　　県

斑点米カメムシ類の発生が多く、ハナエチゼンや出穂したコシヒカリ等ではカメムシ類が高密度に生息するほ場がみられます。今後、斑点米被害の多発生が懸念されますので注意報を発表します。

発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除をお願いします。

記

１．病害虫名　　斑点米の原因となるカメムシ類

２．発生地域　　県下全域

３．発生時期　　７月下旬～８月

４．発生量　　やや多い～多い

５．注意報発表の根拠

１）７月14～18日に出穂している極早生ほ場ですくい取り調査を行ったところ、カメムシ類合計で9.0頭/20回振り(平年：6.4頭)、発生圃場率は80.8%(平年：74.4%)、で平年に比べてやや多い。特にアカスジカスミカメ、クモヘリカメムシの生息密度が平年に比べて高い。

２）６月下旬の圃場周辺雑草地のすくい取り調査では、カメムシ類合計で13.6頭/20回振り(平年6.21頭)、発生地点率68.8%（平年68.5%）で平年に比べて多い。

３）予察灯でのアカスジカスミカメの誘引数は177頭（７月第４半旬までの累積数、平年133頭）で平年並みである。

４）１ヶ月予報(７月24日広島地方気象台発表)によると、気温は高く経過し、晴れる日が多い見込みであり、カメムシ類の増殖に好適な条件が予想される。

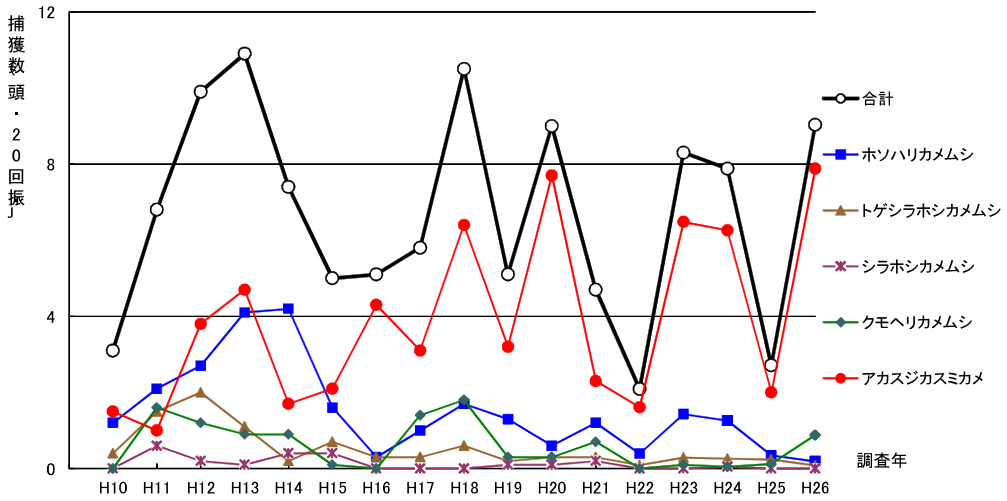
６．防除対策および防除上の注意事項

１）粉剤、液剤による防除は、第１回目は穂揃期の３日後、第２回目はその１０日後に散布する。その後、圃場に成虫や幼虫の発生が認められる場合には追加防除を行う。畦畔などにイネ科雑草がある場合は、畦畔を含めて散布する。広域的な一斉防除を行うとより効果的である。

２）粒剤による防除は出穂～７日後に３cm程度の湛水状態で行い、散布後7日間は止水状態を保つ。その後成虫や幼虫の発生に応じて追加防除を行う。

３）圃場内のヒエ類などの穂はカメムシ類の増殖源となるので早急に処分する。
４）薬剤の使用に当たっては、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を確認のうえ使用する。また、薬剤散布は周辺作物への飛散に十分注意する。
５）農薬による蜜蜂への影響を軽減するため、①蜜蜂の活動が最も盛んな時間帯(午前８～12時）の農薬の散布を避け、できるだけ早朝または夕刻に散布する、②蜜蜂が暴露しにくい形態(粒剤の田面散布)の殺虫剤を使用する、などの対策に努める。

７．出穂した水稲におけるカメムシ類の発生状況（７月下旬・圃場内20回振り）



農薬の安全使用の徹底を！

・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
・有効期限切れ農薬は使用しない。
・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所
TEL　0853-22-6772　　FAX　0853-24-3342
ホームページ　http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/

【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所［担当：澤村］
ＴＥＬ：０８５３－２２－６７７２
ＦＡＸ：０８５３－２４－３３４２

平成２６年度病害虫発生予察情報　注意報第２号

平成26年７月24日
島　　根　　県

果樹を加害するカメムシ類の発生量が多く、カキ、ナシ、スモモなどで被害が多発生する恐れがありますので注意報を発表します。現地では発生状況の把握に努めるとともに、発生園では適切な防除対策を講ずるよう指導をお願いします。

記

１．病害虫名　　果樹カメムシ類
２．発生地域　　県内カキ、ナシ、スモモ栽培地帯
３．発生時期　　７月下旬～
４．発 生 量　　やや多い
５．注意報発表の根拠
１）予察灯（出雲市）でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの誘殺数は平年に比べ多く推移している。７月第４半旬までの予察灯での３種カメムシ類の累積誘殺数は1240頭（平年値840頭）とやや多く誘殺された（第１図）。
２）チャバネアオカメムシの集合フェロモン（出雲市）における誘殺数は７月第２半旬から４半旬にかけて増加し、1718頭(平年値380.5頭)と増加し、今後も果樹カメムシ類の飛来、加害が活発化すると考えられる（第２図）。
３）７月中旬の巡回調査ではカキでの被害果率は0.4％（平年値0.4％）と平年並みであるが、今後カキや無袋栽培のナシなどで被害が発生する恐れがある。なお、有袋栽培のナシでも果実の肥大にともない果実袋を通して加害される恐れがある。
４）本年はスギ・ヒノキの花粉の飛散が平年に比べ少なく、毬果は少ないと予想され果樹園への飛来が平年に比べ早くなると予想される。
５）カキ、ナシ（無袋）の摘果作業はほぼ終わっている。

６．防除対策および防除上の注意事項
１）山間地や山沿いの園ではカメムシ類の発生加害が多いので特に注意する。
２）カメムシはスギ・ヒノキの毬果で増殖し、果樹園に移動するので付近のスギ・ヒノキについても観察する。
３）薬剤の使用にあたっては、農薬使用基準ならびに本県農作物病害虫雑草防除指針を遵守する。

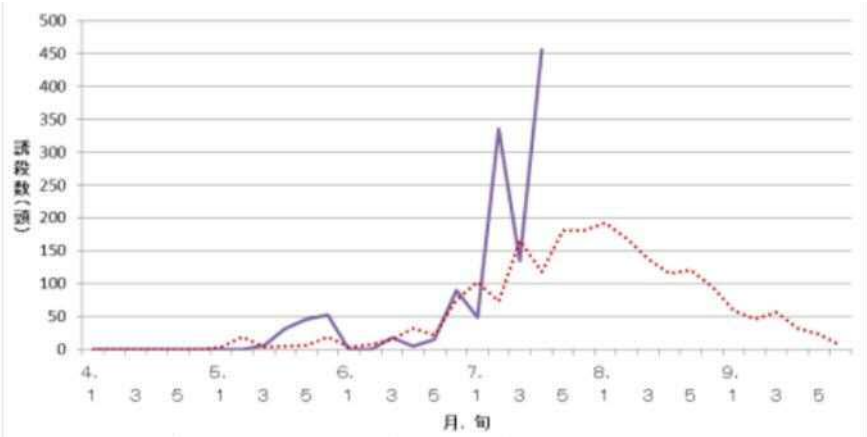


図1 予察灯における果樹カメムシ類3種の誘殺消長(2014年)

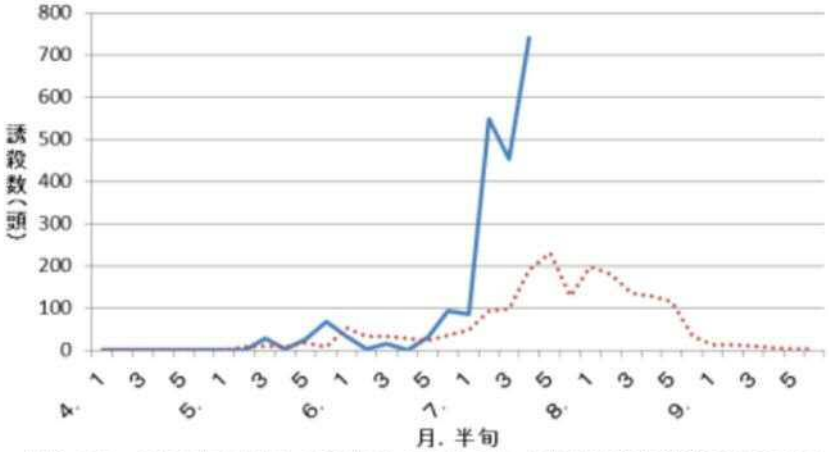


図2 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップにおける誘殺消長(2014年)

７．薬剤による防除

１）種類および濃度使用基準（平成26年７月24日現在）

薬　剤　名	カ　　キ		ナ　　シ	
アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	3日前／3回	2,000倍	前日／3回
アグロスリン水和剤	1,000～2,000倍	前日／3回	1,000～2,000倍	前日／3回
アドマイヤー顆粒水和剤	5,000～10,000倍	7日前／3回	5,000～10,000倍	3日前／2回
アディオン乳剤	2,000～3,000倍	7日前／5回	2,000倍	前日／2回
ジノテフラン水溶剤(顆粒)	2,000倍	前日／3回	2,000倍	前日／3回
スカウトフロアブル	1,500倍	7日前／5回	1,500倍	前日／5回
スミチオン水和剤40	800～1,000倍	45日前／3回	800～1000倍	
			（有袋）	14日前／3回
			（無袋）	21日前／2回
ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	7日前／3回	2,000～4,000倍	前日／3回
テルスター水和剤	1,000～2,000倍	14日前／2回	1,000～2,000倍	前日／2回
MR.ジョーカー水和剤	2,000倍	14日前／2回	2,000倍	14日前／2回

薬　剤　名	スモモ	
ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	3日前／3回
ジノテフラン水溶剤(顆粒)	2,000倍	前日／3回

２）散布時期および回数

発生に応じて数回散布する。

３）散布量：10ａ当たり　液剤300～400㍑

【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所［担当：永島・奈良井・小塚］
ＴＥＬ：０８５３－２２－６７７２
ＦＡＸ：０８５３－２４－３３４２

平成２６年度　病害虫発生予察情報　特殊報第１号（新病害発生情報）

平成２６年１０月９日
島根県病害虫防除所

トルコギキョウえそ輪紋病の本県での初発生が確認されたので特殊報を発表します。

【概況】
平成２６年6月、県西部の施設栽培のトルコギキョウにおいて、葉のえそ輪紋、茎のえそ条斑症状を示す株が確認された（図1～３）。症状からウイルスによる病害の疑いがあったため、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センターに診断を依頼したところ、アイリスイエロースポットウイルスによるえそ輪紋病であることが判明した。その後の調査で、県東部のほ場でも発生を確認した。
国内における本ウイルスによる病害は、平成８年に千葉県のアルストロメリアで初確認され、トルコギキョウでは平成13年に佐賀県で確認された。このほか、全国３１都府県でタマネギ、ニラ、ネギ等での被害が報告されている。中国地方では、岡山県、山口県、広島県でトルコギキョウ、鳥取県ではラッキョウでの被害が報告されている。

１　病害虫名　トルコギキョウえそ輪紋病
２　病　原　名　アイリスイエロースポットウイルス
（*Iris yellow spot virus*：IYSV）
３　作　物　名　トルコギキョウ
４　発生場所　県内全域
５　発生生態
１）病徴
葉の黄化、えそ斑点、えそ輪紋、茎のえそ条斑等を生じるが、品種や生育段階によって異なる。なお、トルコギキョウに感染する他のウイルスも症状が酷似するため、病徴だけでの判別は困難である。

図１　株全体

図２　葉のえそ輪紋

図３　茎のえそ条斑

図４　ネギアザミウマ（媒介虫）

２）伝染経路
ネギアザミウマ（図４）により伝搬される。幼虫の時に本ウイルスを獲得し、幼虫及び成虫がウイルスを伝搬する。ウイルスを保毒後、死亡するまで伝搬能力を保持するが、経卵伝染はしない。
種子伝染や土壌伝染は報告されていない。また汁液伝染によって感染するが、作業管理により伝染する可能性は低いとされている。

３）宿主植物
40種以上の植物で感染が確認されている。
表１．IYSVの感染が確認されている主な植物

科	植物名
リンドウ科	トルコギキョウ
ユリ科	ネギ、タマネギ、ニラ、ラッキョウ、ニンニク、テッポウユリ、リーキ
アルストロメリア科	アルストロメリア
ヒガンバナ科	スイセン、ユーチャリス
ナデシコ科	コハコベ、オランダミミナグサ、ノミノフスマ
アブラナ科	ダイコン、ハクサイ、ブロッコリー、ミズナ、ナズナ、イヌガラシ、タネツケバナ、スカシタゴボウ
カタバミ科	カタバミ
スベリヒユ科	スベリヒユ
スミレ科	パンジー
シソ科	ホトケノザ

６　防除対策

１）発病株は伝染源となるため、見つけ次第株ごと抜き取り、ビニール袋で密閉して施設外へ持ち出し、適切に処分する。
２）ウイルスの伝搬はネギアザミウマによって行われるため、薬剤防除を行う。その際は、同一系統の農薬の連用を避ける。また、青色粘着トラップを設置するとアザミウマ類の発生状況が把握できる。
３）施設の開口部に防虫ネット（目合い0.6mm以下のネットやタイベック織り込みネットが望ましい）を設置し、施設内へのネギアザミウマの侵入を抑制する。
４）施設内及び周辺の雑草は、ウイルスの感染源やネギアザミウマの繁殖場所となるので、施設内外の除草を徹底する。

表２．アザミウマ類に登録のある主な薬剤（平成26年9月末現在）
トルコギキョウ

農薬名	使用時期	希釈倍率・使用量	使用回数	使用方法	薬剤の系統
ジェイエース粒剤	発生初期	1株あたり1～2ｇ	5回以内	株元散布	有機ﾘﾝ
ジェネレート粒剤	発生初期	1株あたり1～2ｇ	5回以内	株元散布	有機ﾘﾝ
スカウトフロアブル	―	2000倍	5回以内	散布	合ﾋﾟﾚ
マブリック水和剤20	発生初期	4000倍	2回以内	散布	合ﾋﾟﾚ

花き類･観葉植物

農薬名	使用時期	希釈倍率・使用量	使用回数	使用方法	薬剤の系統
オルトラン水和剤	発生初期	1000～1500倍	5回以内	散布	有機ﾘﾝ
オンコル粒剤5	生育期	6kg/10a	3回以内	株元散布	ｶｰﾊﾞﾒ
モスピラン顆粒水溶剤	発生初期	2000倍	5回以内	散布	ﾈｵﾆｺ
ディアナSC	発生初期	2500～5000倍	2回以内	散布	ﾏｸﾛ
ハチハチフロアブル	発生初期	1000倍	4回以内	散布	その他
カウンター乳剤	発生初期	2000倍	5回以内	散布	IGR

（注）モスピラン顆粒水溶剤は「きく・ストック」を除く。カウンター乳剤は「きく」を除く。

７　その他

疑わしい症状が発生している場合は、病害虫防除所（0853-22-6772）に連絡する。

【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所［担当：小塚・角］
ＴＥＬ：０８５３－２２－６７７２
ＦＡＸ：０８５３－２４－３３４２

平成26年度　病害虫発生予察情報　技術情報第１号

平成26年8月14日
島根県病害虫防除所

斑点米カメムシ類の一種であるクモヘリカメムシの発生が多く、出穂したコシヒカリ等で高密度に生息する圃場がみられます。今後、斑点米被害の多発生が懸念されますので技術情報を発表します。

発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

記

１．病害虫名　　クモヘリカメムシ
２．発生地域　　県下全域
３．発生時期　　８月中旬～
４．発生量　　多い

＊＊＊斑点米カメムシ注意報（７月２４日）発令中＊＊＊

５．技術情報発表の根拠

１）８月中旬に出穂している圃場ですくい取り調査を行ったところ、斑点米カメムシ類の発生圃場率は63.6％(平年：64.4％)、平均頭数は3.1頭/20回振り(平年：3.1頭)と平年並であった。しかし、斑点米カメムシ類の一種であるクモヘリカメムシの発生圃場率は50.0％(平年：8.3％)、平均頭数は1.0頭/20回振り(平年：0.2頭)と平年に比べ多く、クモヘリカメムシの生息密度が高い圃場が各地で認められる。

２）クモヘリカメムシはイネの穂を好んで加害するため、一日における斑点米産出量が多い。また、本種による加害は成熟期まで続くため一層の注意が必要である。

６．防除対策および防除上の注意事項

１）耕種的防除

・出穂間際になってからの草刈りは斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるので行わない。出穂期以降の草刈りは本田の薬剤防除の直前に行うようにする。

・圃場内のヒエ類などの穂はカメムシ類の増殖源となるので早急に処分する。

２）薬剤による防除

・粉剤、液剤による防除は、第１回目は穂揃期の３日後、第２回目はその１０日後に散布する。その後、圃場に成虫や幼虫の発生が認められる場合には追加防除を行う。畦畔などにイネ科雑草がある場合は、畦畔を含めて散布する。広域的な一斉防除を行うとより効果的である。

・粒剤による防除は出穂～７日後に３cm程度の湛水状態で行い、散布後7日間は止水状態を保つ。その後、成虫や幼虫の発生に応じて追加防除を行う。

・圃場内のヒエ類などの穂はカメムシ類の増殖源となるので早急に処分する。

・薬剤の使用に当たっては、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を確認のうえ使用する。また、薬剤散布は周辺作物への飛散に十分注意する。

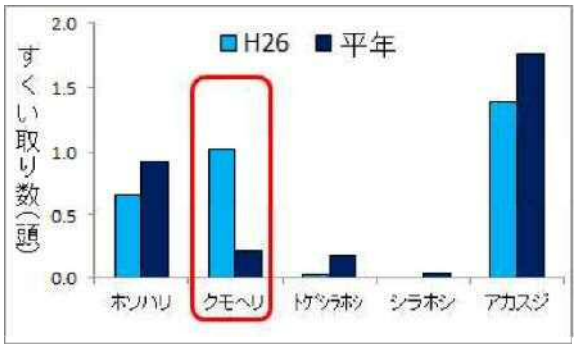


図1.カメムシ類すくい取り数
（8月中旬、20回振りあたり）

図2.カメムシ類発生圃場率
（8月中旬、県全体）

クモヘリカメムシ（左：成虫　右：幼虫）

【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所［担当：福間・小塚］
ＴＥＬ：０８５３－２２－６７７２
ＦＡＸ：０８５３－２４－３３４２

平成２６年度　病害虫発生予察情報　技術情報第２号

平成２６年１０月３１日
島根県病害虫防除所

【概況】

平成２６年８月、県東部のエゴマほ場において、エゴマが急激に萎れ、枯死する被害を確認した（図１）。発病株（図２）の茎を切断すると維管束が褐変しており、切断面を水に浸けると、白色の菌泥が認められたため細菌病と考えられた（図３）。そこで、島根県農業技術センターで診断した結果、*Ralstonia solanacearum*による青枯病であることが判明した。また、その後の調査で県西部のほ場でも発生を確認した。

エゴマ青枯病は、平成20年に愛知県で初めて確認、報告されている。

１　病害虫名　エゴマ青枯病
２　病 原 名　*Ralstonia solanacearum*（細菌）
３　作 物 名　エゴマ（シソ科）
４　発生場所　県内全域
５　発生生態

１）病徴

発病すると、急激に萎凋し、いわゆる青枯症状を呈して枯死する。茎を切断すると維管束が褐変し、切断部を水につけると白濁液が漏出する。

２）伝染経路

土壌伝染性の病害である。水によって伝搬され、地下部の傷口から植物体に侵入する。本病が一度発生すると、宿主植物が栽培されていなくても長期間土壌中で生存する。健全株と発病株の根が接触して伝染するほか、収穫や摘心等の管理作業で発病株から健全株に伝染する。

３）宿主植物

宿主範囲はナス、トマト、ピーマン等のナス科植物を中心として、多犯性でありシソや雑草にも感染する。

６　防除対策

１）イネ科作物等の本細菌が感染しない作物による輪作体系を取り入れ、細菌密度の上昇を防ぐ。

２）土壌伝染性の病害であるため、発生ほ場の土壌を未発生ほ場に持ち込まない。

３）発病株は伝染源となるので、直ちに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。抜き取った発病株付近は、発病が拡大しないか継続して観察する。

４）病原菌は高温多湿を好むため、ほ場の排水対策を徹底する。

５）摘心、収穫等の管理作業でも伝染するため、管理作業に用いる刃物は次亜塩素酸カルシウム等で消毒して使用する。

６）センチュウ類が発生している圃場で病害が発生すると被害が大きくなりやすいため、センチュウ類の防除対策を行う。

７　その他

疑わしい症状が発生している場合は、病害虫防除所（0853-22-6772）に連絡する。

図1　発生状況

図2　発病株

図3　茎切断部から漏出する青枯病菌の菌泥（細菌の集団）

【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所［担当：磯田・小塚］
ＴＥＬ：０８５３－２２－６７７２
ＦＡＸ：０８５３－２４－３３４２

平成26年度　病害虫発生予察情報　技術情報第３号

平成27年２月２５日
島根県病害虫防除所

QoI剤耐性イネいもち病菌の発生状況について

イネいもち病の防除薬剤であるストロビルリン系殺菌剤(以下、QoI剤）の耐性菌の発生状況について、平成17年以降、県内各地からいもち病の罹病標本を採取し検定を実施しています。県内の発生状況と対策は下記のとおりです。

記

１．QoI剤耐性菌の発生状況

１）平成17年～平成23年
耐性菌の発生を認めていない。

２）平成24年
穂いもちを73ほ場から採取し、単胞子分離した73菌株（１ほ場１菌株）を検定した。県西部の１地点３ほ場（4.1%）で耐性菌の発生を確認した（表１）。

３）平成25年
葉いもちまたは穂いもちを112ほ場から採取し、単胞子分離した112菌株（1ほ場1菌株）を検定した。県西部の13ほ場（11.6%）で耐性菌の発生が認められた（表１）。

４）平成26年
穂いもちを126ほ場から採取した。単胞子分離した126菌株（1ほ場1菌株）を検定した結果、県東部の1ほ場と西部の12ほ場の計13ほ場（10.3%）で耐性菌の発生が認められた（表１）。

表１　QoI剤耐性菌の発生状況

調査年	調査ほ場数	耐性菌を確認したほ場数
平成24年	73	3（ 4.1%)
平成25年	112	13（11.6%)
平成26年	**126**	**13（10.3%)**

２．防除対策

１）引き続きQoI剤の育苗箱処理剤は使用しない。
２）QoI剤の本田散布剤は、他系統の育苗箱処理剤との体系防除で使用する。
ただし、既発生地域の使用と未発生地域での多発生時の使用は避ける。
３）引き続き採種圃場およびその周辺圃場ではQoI剤を使用しない。
４）耕種的な防除対策（種子更新、塩水選、種子消毒の実施等）を徹底する。

Ⅶ）気象表（平成26年）

観測地点：出雲市芦渡町２４４０（海抜２０ｍ）

月	半旬	最高気温 本年	最高気温 平年	最低気温 本年	最低気温 平年	平均気温 本年	平均気温 平年	降水量 本年	降水量 平年	日照時数 本年	日照時数 平年
1月	1	10.1	9.1	3.6	1.7	6.8	5.4	4.5	19.1	17.4	9.7
	2	8.2	8.6	0.4	1.4	4.0	5.0	48.5	20.3	16.7	9.1
	3	7.3	8.3	1.8	1.2	4.7	4.8	4.0	21.0	2.9	9.0
	4		8.0		0.9		4.5		20.5		8.9
	5	13.3	7.7	9.4	0.7	11.6	4.2	9.5	18.9	2.7	8.6
	6	11.2	7.6	0.1	0.5	6.3	4.0	13.0	20.2	30.0	11.6
合計,平均		10.0	8.2	3.1	1.1	6.7	4.7	15.9	20.0	13.9	9.5
2月	1	11.7	7.9	2.0	0.4	6.3	4.2	24.0	15.3	12.0	11.5
	2	4.3	8.5	-0.3	0.6	1.7	4.6	24.0	15.2	4.6	12.8
	3	5.5	9.0	1.9	0.7	3.4	4.9	4.5	16.8	5.3	13.7
	4	7.4	9.2	-0.5	0.7	3.2	4.9	1.5	18.7	12.8	14.9
	5	10.4	9.4	-0.6	0.7	5.0	5.1	1.5	20.0	38.8	16.1
	6	12.2	9.8	4.2	0.9	8.3	5.4	15.0	12.3	4.2	10.2
合計,平均		8.6	9.0	1.1	0.7	4.7	4.9	11.8	16.4	13.0	13.2
3月	1	10.3	10.3	1.7	1.2	5.9	5.8	7.5	20.3	13.7	18.1
	2	7.6	11.1	-2.2	1.6	2.6	6.4	14.5	18.9	11.2	20.0
	3	10.8	12.0	0.9	2.0	6.4	7.2	60.0	18.6	19.0	22.1
	4	15.2	12.7	5.8	2.5	10.7	7.8	16.0	19.6	10.0	23.4
	5	14.0	13.3	3.5	2.9	9.6	8.3	5.0	20.5	8.3	23.5
	6	18.0	14.0	7.8	3.5	12.6	9.0	59.0	24.0	26.6	29.5
合計,平均		12.7	12.2	2.9	2.3	8.0	7.4	27.0	20.3	14.8	22.8
4月	1	16.6	15.3	3.5	4.2	9.7	10.0	22.5	18.9	27.9	27.6
	2	15.8	16.4	3.0	5.2	9.7	11.1	3.0	18.9	35.2	29.3
	3	18.3	17.4	2.8	6.2	10.9	12.0	0.0	19.0	40.9	29.8
	4	18.4	18.3	8.0	7.1	13.1	12.9	14.5	18.4	26.9	30.5
	5	20.8	19.3	5.4	7.9	13.2	13.8	2.0	17.6	44.7	31.7
	6	21.8	20.2	10.9	8.7	15.7	14.7	30.0	18.3	23.5	33.1
合計,平均		18.6	17.8	5.6	6.6	12.1	12.4	12.0	18.5	33.2	30.3
5月	1	21.1	21.1	6.6	9.7	14.9	15.6	2.5	20.8	46.6	33.2
	2	20.8	21.6	5.6	10.5	13.9	16.2	4.0	23.1	58.9	32.2
	3	22.8	21.8	11.0	10.9	17.5	16.5	11.5	23.6	26.8	32.1
	4	24.1	22.2	9.9	11.5	17.4	17.0	19.0	21.2	49.2	33.2
	5	23.6	22.9	13.8	12.1	18.6	17.6	6.0	19.1	44.8	34.4
	6	26.7	23.7	13.3	12.9	20.4	18.4	20.0	23.3	55.3	41.3
合計,平均		23.2	22.2	10.0	11.3	17.1	16.9	10.5	21.9	46.9	34.4
6月	1	26.8	24.5	16.4	13.9	21.1	19.2	9.5	18.0	13.6	33.6
	2	24.4	25.3	17.5	14.8	20.4	20.0	15.0	16.6	6.5	32.1
	3	23.3	25.8	17.4	15.8	20.1	20.6	64.5	21.0	24.7	30.0
	4	24.9	26.0	15.3	17.0	20.1	21.3	6.0	34.4	33.1	26.0
	5	25.7	26.2	17.6	18.0	21.1	21.8	7.5	51.3	30.8	21.3
	6	26.7	26.5	18.1	18.9	22.5	22.4	0.0	60.2	31.2	19.7
合計,平均		25.3	25.7	17.1	16.4	20.9	20.9	17.1	33.6	23.3	27.1

＊：準正常値(品質に軽微な問題があるか、または統計値を求める対象となる資料の一部が許容する範囲内で欠けている)を含む値。

月	半旬	最高気温 本年	最高気温 平年	最低気温 本年	最低気温 平年	平均気温 本年	平均気温 平年	降水量 本年	降水量 平年	日照時数 本年	日照時数 平年
	1	25.6	27.1	19.1	19.7	22.3	23.2	43.0	55.7	16.3	21.5
7	2	29.6	27.9	21.4	20.5	24.9	24.0	12.5	51.1	10.3	22.9
	3	27.8	28.7	19.0	21.1	23.4	24.6	80.0	51.4	25.8	24.3
	4	28.9	29.4	22.0	21.6	24.9	25.2	11.5	45.0	30.9	28.9
月	5	30.8	30.2	23.1	22.0	27.0	25.8	0.0	31.1	49.2	34.2
	6	32.7	30.9	21.4	22.3	26.5	26.3	10.5	22.6	61.1	43.9
合計, 平均		29.2	29.0	21.0	21.2	24.8	24.9	26.3	42.8	32.3	29.3
	1	30.8	31.4	23.7	22.4	26.7	26.6	38.5	15.8	3.1	36.9
8	2	27.2	31.6	21.9	22.4	24.3	26.6	118.0	18.3	8.5	36.0
	3	28.1	31.4	21.2	22.5	23.9	26.5	38.0	20.6	11.8	34.2
	4	29.9	31.0	22.4	22.2	25.2	26.2	107.0	21.0	12.3	33.2
月	5	29.5	30.6	21.3	21.7	24.8	25.8	42.0	20.9	24.6	32.5
	6	26.4	30.2	20.1	21.0	22.8	25.2	19.0	27.3	17.5	37.3
合計, 平均		28.7	31.0	21.8	22.0	24.6	26.2	60.4	20.7	13.0	35.0
	1	27.9	29.3	19.9	20.3	23.7	24.4	14.5	27.6	16.8	28.5
9	2	29.0	28.2	17.1	19.4	22.0	23.4	9.0	32.0	42.1	26.2
	3	26.3	27.3	15.0	18.4	20.5	22.5	0.0	32.6	32.4	25.4
	4	25.4	26.5	15.0	17.3	19.6	21.6	0.0	31.6	25.0	25.4
月	5	26.4	25.5	14.7	16.2	20.5	20.5	15.0	30.4	32.5	24.7
	6	25.9	24.5	15.4	15.1	20.1	19.5	0.0	26.6	37.5	24.0
合計, 平均		26.8	26.9	16.2	17.8	21.1	22.0	6.4	30.1	31.1	25.7
	1	22.4	23.7	17.1	14.0	19.3	18.6	51.0	21.3	7.9	24.3
10	2	23.1	23.1	11.7	13.0	17.2	17.8	4.0	18.9	35.9	25.4
	3	21.0	22.4	13.3	11.8	16.8	16.9	78.0	18.8	18.9	26.6
	4	21.8	21.4	7.7	10.6	14.5	15.8	0.0	18.6	35.5	26.9
月	5	20.7	20.4	10.4	9.7	15.2	14.8	55.5	17.5	29.0	25.4
	6	19.7	19.5	6.9	8.9	13.4	14.0	16.5	21.5	36.8	28.4
合計, 平均		21.5	21.8	11.2	11.3	16.1	16.3	34.2	19.4	27.3	26.2
	1	19.0	18.8	9.5	8.3	13.8	13.4	30.0	18.9	26.2	22.7
11	2	17.6	17.9	7.3	7.9	12.2	12.8	11.5	19.8	22.7	21.0
	3	15.0	16.7	6.2	7.2	10.7	11.9	0.5	20.4	15.4	18.0
	4	14.7	15.5	4.8	6.1	9.3	10.9	6.5	19.1	15.6	16.6
月	5	17.6	14.7	6.6	5.2	11.8	10.0	43.5	18.8	25.6	15.7
	6	16.7	13.8	6.4	4.8	12.1	9.3	29.0	21.5	13.7	14.3
合計, 平均		16.8	16.2	6.8	6.6	11.7	11.4	20.2	19.8	19.9	18.1
	1	9.2	12.9	3.2	4.3	6.3	8.6	75.5	23.8	3.8	13.2
12	2	9.9	12.1	1.3	3.8	5.9	8.0	4.0	22.9	13.4	12.1
	3	8.0	11.2	3.3	3.4	5.9	7.4	25.0	20.5	0.9	11.2
	4	5.8	10.6	0.2	3.0	3.0	6.9	42.0	18.6	7.2	11.0
月	5	8.6	10.3	3.3	2.6	6.2	6.5	5.0	17.8	5.5	11.5
	6	10.0	9.8	1.6	2.1	5.7	6.0	15.0	21.5	19.8	13.1
合計, 平均		8.6	11.2	2.2	3.2	5.5	7.2	27.8	20.9	8.4	12.0

西暦年の1位が1の年から数えて、連続する30年間について算出した累年平均値を平年値という。これをその統計期間に引き続く10年間使用し、10年ごとに更新する。したがって2011～2020年の間は、1981～2010年(昭和46～平成12年)の資料から算出された平年値を使用する。

平成２６年度　農作物有害動植物発生予察事業年報
２０１９年　３月　１日　発行
編集･発行　島 根 県 農 業 技 術 セ ン タ ー
（資源環境研究部　病虫科）
島 根 県 病 害 虫 防 除 所
〒693-0035　島根県出雲市芦渡町２４４０番地
電　　話　（０８５３）２２－６７７２
Ｆ Ａ Ｘ　（０８５３）２４－３３４２